

特定原子力施設検査実施要領書
(使用前検査)

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所

工事の工程：構造、強度又は漏えいに係る試験をすることが
できる状態になった時
設備の組立てが完了した時
工事の計画に係る工事が完了した時

対象設備：雨水処理設備等
貯留設備
関連設備
汚染水処理設備等
中低濃度タンク

要領書番号：原規規収第 1911111 号 01

令和 2 年 2 月

原子力規制委員会

改訂来歴

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一原子力発電所

特定原子力施設検査（使用前検査）

工事の工程： 構造、強度又は漏えいに係る試験をすることができる状態になった時
設備の組立てが完了した時
工事の計画に係る工事が完了した時

対象設備： 雨水処理設備等
貯留設備
関連設備
汚染水処理設備等
中低濃度タンク

要領書番号： 原規規収第 1911111 号 01

回	年 月 日	改訂箇所、改訂内容及び改訂理由
一	令和2年 2月 3日	制定
		以下余白

目 次

I. 検査目的及び検査項目	1
II. 検査対象設備及び範囲	2
III. 検査場所	2
IV. 実施計画の認可関係	2
V. 検査方法	3
VI. 判定基準	6
VII. 添付資料	8
1. 検査項目表	
2. 寸法検査許容寸法	
3. 使用前検査成績書様式	
4. 関連図書及び詳細手順	
資料 1. 実施計画（抜粋）	
資料 2. 検査範囲図	
資料 3. 耐圧・漏えい検査要領	
資料 4. 漏えい警報検査要領	
資料 5. 通水検査要領	

I. 検査目的及び検査項目

本検査は、東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則（以下「規則」という。）第20条第1項の表第一号、第二号及び第三号の工事の工程に係る検査項目の使用前検査について、福島第一原子力発電所に係る雨水処理設備等のうち貯留設備及び関連設備並びに汚染水処理設備等のうち中低濃度タンクの工事が認可された実施計画（*1）に従い行われていることを確認するもので、以下の検査（*2）を実施する。

1. 材料検査
2. 寸法検査
3. 外観検査
4. 組立て及び据付け状態を確認する検査（以下「組立・据付検査」という。）
5. 耐圧・漏えい検査
6. 耐圧代替検査
7. 性能検査
 - (1) 運転性能検査
8. 機能検査
 - (1) 漏えい警報検査
 - (2) 漏えい拡大防止機能検査
 - (3) 通水検査

*1：認可された実施計画とは、原子力事業者等が核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第64条の2第2項の規定に基づき原子力規制委員会に提出し、認可された実施計画

*2：材料検査、寸法検査、外観検査、組立・据付検査、耐圧・漏えい検査及び耐圧代替検査は規則第20条第1項の表第一号の工事の工程に係る検査項目である。また、運転性能検査、漏えい警報検査及び漏えい拡大防止機能検査は規則第20条第1項の表第二号の工事の工程に係る検査項目であり、通水検査は規則第20条第1項の表第三号の工事の工程に係る検査項目である。

原規福発第 1308142 号 (平成 25 年 8 月 14 日) 原規規発第 1907083 号 (令和元年 7 月 8 日)	汚染水処理設備等 中低濃度タンク
--	---------------------

V. 検査方法

実施計画に基づく検査の方法は以下のとおりである。

各機器に対する検査項目を添付資料-1「検査項目表」に示す。

共通事項

(1) 使用前検査申請書の確認

- a. 本検査に係る使用前検査申請書(変更申請も含む。)が準備されていることを確認する。
- b. 検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであることを確認する。

1. 材料検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。

2) 検査手順

実施計画に記載されている材料が使用されていることを申請者の品質記録により確認する。

2. 寸法検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。

2) 検査手順

実施計画に記載されている主要寸法を申請者の品質記録により確認する。

許容寸法は添付資料-2「寸法検査許容寸法」を参照のこと。

3. 外観検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。

2) 検査手順

検査対象の外観について、健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないことを各機器に対し1基以上、主要配管にあつては1箇所以上立会し、その他については申請者の品質記録により確認する。

4. 組立・据付検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 耐圧・漏えい検査で漏えい確認できないフランジ部については適切に締め付けられていることを確認する。
- d. 使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。

2) 検査手順

- a. 検査対象の組立て状態並びに据付け位置及び据付け状態を各機器に対し1基以上、主要配管にあつては1箇所以上立会し、その他については申請者の品質記録により確認する。
- b. タンク基礎の不陸を申請者の品質記録により確認する。
- c. タンクの地盤支持力の確認として支持力試験におけるタンク基礎底面地盤の支持力を申請者の品質記録により確認する。

詳細は、添付資料－4「関連図書及び詳細手順」資料1.「実施計画（抜粋）」及び資料2.「検査範囲図」を参照のこと。

5. 耐圧・漏えい検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。
- d. 系統構成が適切であることを確認する。

2) 検査手順

耐圧検査圧力で所定時間保持した後、検査圧力に耐え、変形等の異常が生じていないこと、及び耐圧検査終了後、耐圧部からの漏えいの有無を1箇所以上立会し、その他については申請者の品質記録により確認する。

詳細は添付資料－4「関連図書及び詳細手順」資料3.「耐圧・漏えい検査要領」を参照のこと。

6. 耐圧代替検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。

2) 検査手順

- a. モバイルRO膜装置雨水受入タンク及びモバイルRO膜装置処理水タンクの底板について、局部漏えい検査及び磁粉探傷試験が実施されていることを、

申請者の品質記録により確認する。

- b. 局部漏えい検査は、JIS Z 2329 (2002)「発泡漏れ試験方法」に基づき実施する。
- c. 磁粉探傷試験は、日本機械学会「発電用原子力設備規格 溶接規格 (2007)」に基づき実施する。

7. 性能検査

(1) 運転性能検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。

2) 検査手順

タンク内部に設置されるポンプについては異音、振動等の異常がないことを、その他のポンプについては異音、異臭、振動、漏えい等の異常がないことを1台以上立会し、その他については申請者の品質記録により確認する。

8. 機能検査

(1) 漏えい警報検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。
- d. 検査対象の警報装置が作動していないことを確認する。

2) 検査手順

漏えい検知器が所定の水位にて漏えいを検知し、警報ランプが点灯表示することを1基以上立会し、その他については申請者の品質記録により確認する。

詳細は、添付資料－4「関連図書及び詳細手順」資料4.「漏えい警報検査要領」を参照のこと。

(2) 漏えい拡大防止機能検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。
- d. 必要な基礎外周堰の高さに影響のある傾斜がないことを確認する。(Dエリア基礎外周堰)

2) 検査手順

(雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット漏えい拡大防止堰)

- a. 堰の容量が実施計画に記載されている保有水量以上であることを申請者の

品質記録により確認する。

(Dエリア基礎外周堰)

- a. 堰内の貯留可能面積と基礎外周堰の高さ（4点以上計測）の実測値から算出し、実施計画に記載されている堰内容量を満足することを申請者の品質記録により確認する。
- b. 検査対象の外観について、健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないことを立会により確認する。

(3) 通水検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 系統構成が適切であることを確認する。

2) 検査手順

主要配管に通水できることを1箇所以上立会し、その他については申請者の品質記録により確認する。

詳細は、添付資料－4「関連図書及び詳細手順」資料5、「通水検査要領」を参照のこと。

VI. 判定基準

1. 材料検査

実施計画のとおりであること。

2. 寸法検査

実施計画に記載されている各部の主要寸法の計測値が許容寸法を満足すること。
主要配管については、実施計画に記載されている主要寸法のとおりであること。

3. 外観検査

機器等の健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないこと。

4. 組立・据付検査

- a. 実施計画のとおり組立て、据付けられていること。
- b. タンク基礎に異常な不陸がないこと。
- c. 支持力試験によるタンク基礎底面地盤の支持力がタンクの鉛直荷重より大きいこと。

5. 耐圧・漏えい検査

a. 耐圧検査

検査圧力に耐え、かつ、異常のないこと。

- b. 漏えい検査
(タンク)
漏えい及び水位の低下がなく貯留できること。
(タンク以外)
耐圧部から漏えいがないこと。

6. 耐圧代替検査

- a. 局部漏えい検査については、発泡又は気泡の成長若しくは気体の噴出がないこと。
- b. 磁粉探傷試験については、その結果が日本機械学会「発電用原子力設備規格 溶接規格 (2007)」に適合すること。なお、磁粉探傷試験の判定基準は、下記のとおり。

密接部の場合	<p>JIS Q0503 の「B 磁粉探傷の分類」により分類した結果、次の 1 から 5 までに適合すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 割れによる磁粉探傷がないこと 2. 長さ 1 mm を超える線状の磁粉探傷がないこと 3. 長さ 4 mm を超える円形物の磁粉探傷がないこと 4. 4 個以上の円形物の磁粉探傷が直線上に並んでいる場合は、隣接する磁粉探傷の間の距離が 1.6 mm を超えること 5. 面積が 2750 mm² の長方形 (短辺の長さは、25 mm 以上とする) 内に円形物の磁粉探傷が 10 個以上含まれないこと。ただし、長さが 1.6 mm 以下の磁粉探傷は算定することを要しない。
--------	--

7. 性能検査

(1) 運転性能検査

タンク内部に設置されるポンプについては異音、振動等の異常がないこと。その他のポンプについては異音、異臭、振動、漏えい等の異常がないこと。

8. 機能検査

(1) 漏えい警報検査

水位設定値 (堰底面から 10 mm) に対して許容範囲 (水位設定値+5 mm) 以下で漏えいを検知し、警報ランプが点灯表示すること。

(2) 漏えい拡大防止機能検査

(雨水 RO 濃縮水移送ラインフィルタユニット漏えい拡大防止堰)

- a. 堰内容量が実施計画に記載されている保有水量以上であること。
(Dエリア基礎外周堰)
- a. 基礎外周堰の堰内容量が実施計画に記載されている容量を満足すること。
- b. 機器等の健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないこと。

(3) 通水検査

通水でき、かつ、漏えいのないこと。

Ⅶ. 添付資料

1. 検査項目表
2. 寸法検査許容寸法
3. 使用前検査成績書様式
4. 関連図書及び詳細手順
 - 資料1. 実施計画（抜粋）
 - 資料2. 検査範囲図
 - 資料3. 耐圧・漏えい検査要領
 - 資料4. 漏えい警報検査要領
 - 資料5. 通水検査要領

検査項目表

設備名 : 雨水処理設備等

設備名 : 汚染水処理設備等

設備・機器名	材料検査	寸法検査	外観検査	組立・据付検査	耐圧・漏えい検査	耐圧代替検査	性能検査	機能検査		
							運転性能検査	漏えい警報検査	漏えい拡大防止機能検査	通水検査
モバイルRO膜装置雨水受入タンク モバイルRO膜装置処理水タンク	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—
雨水RO濃縮水受入タンク ろ過処理水受入タンク	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット	○ ※	○ ※	○	○	○ ※	—	—	—	—	—
モバイルRO膜装置雨水受入タンク基礎外周堰 モバイルRO膜装置処理水タンク基礎外周堰	—	○	○	○	—	—	—	—	—	—
Dエリア基礎外周堰 〔雨水RO濃縮水受入タンク、 ろ過処理水受入タンク〕	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット 漏えい拡大防止堰	—	—	○	○	—	—	—	—	○	—
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット 漏えい検知器	—	—	○	○	—	—	—	○	—	—
モバイルRO膜装置供給ポンプ 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット 供給ポンプ ろ過処理水移送ポンプ	—	—	○	○	—	—	○	—	—	—
主要配管	○	○	○	○	○	—	—	—	—	○

※ 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタ容器が対象

寸法検査許容寸法

<計測方法について>

モバイルRO膜装置雨水受入タンク，モバイルRO膜装置処理水タンク

- ・内径は0° -180° ,45° -225° ,90° -270° ,135° -315° の4方向を測定する。
- ・高さは、底板上面からトップアングル上面までの寸法。

雨水RO濃縮水受入タンク，ろ過処理水受入タンク

- ・内径は0° -180° ,45° -225° ,90° -270° ,135° -315° の4方向を測定する。
- ・高さは、底板下面から天板上面までの寸法。

雨水RO濃縮水移送ラインフィルタ容器

- ・内径は0° -180° ,45° -225° ,90° -270° ,135° -315° の4方向を測定する。
- ・高さは、鏡板端部（下面）から蓋板上面までの寸法。

基礎外周堰

- ・堰の高さについては、各変化点を測定する。

<許容範囲について>

- ・タンク及び雨水RO濃縮水移送ラインフィルタ容器の許容寸法については、添付資料－ 4「関連図書及び詳細手順」資料1.「実施計画（抜粋）」の別冊1 4「雨水処理設備等に係わる補足説明」による。
- ・基礎外周堰の許容寸法については、添付資料－ 4「関連図書及び詳細手順」資料1.「実施計画（抜粋）」の「別表－ 1 各タンク設置エリアの基礎外周堰の高さ」による。

特定原子力施設検査成績書
(使用前検査)

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所

工事の工程：構造、強度又は漏えいに係る試験をすることが
できる状態になった時
設備の組立てが完了した時
工事の計画に係る工事が完了した時

対象設備：雨水処理設備等
貯留設備
関連設備
汚染水処理設備等
中低濃度タンク

要領書番号：原規規収第 1911111 号 01

年 月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

1. 施設名 東京電力ホールディングス株式会社 福島第一原子力発電所
2. 検査の種類 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則第20条第1項の表第一号、第二号及び第三号に係る雨水処理設備等のうち貯留設備及び関連設備並びに汚染水処理設備等のうち中低濃度タンクの使用前検査
3. 検査申請 使用前検査申請番号
4. 検査期日 自 年 月 日
至 年 月 日
5. 検査場所
6. 検査実施者 検査実施者一覧表のとおり
7. 検査結果 検査結果一覧表のとおり
8. 添付資料 (1) 検査前確認事項
(2) 材料検査記録
(3) 寸法検査記録
(4) 外観検査記録
(5) 組立・据付検査記録
(6) 耐圧・漏えい検査記録
(7) 耐圧代替検査記録
(8) 性能検査（運転性能検査）記録
(9) 機能検査（漏えい警報検査）記録
(10) 機能検査（漏えい拡大防止機能検査）記録
(11) 機能検査（通水検査）記録
(12) 検査用計器一覧表（立会分）

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
年 月 日			
年 月 日			
年 月 日			

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等
貯留設備

検査範囲	材料検査	寸法検査	外観検査	組立・ 据付検査	耐圧・ 漏えい検査	耐圧代替検査	備考
モバイルRO膜装置雨水 受入タンク	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
モバイルRO膜装置処理 水タンク	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等

貯留設備

関連設備

検査範囲	材料検査	寸法検査	外観検査	組立・ 据付検査	耐圧・ 漏えい検査	備考
雨水RO濃縮水受入タンク	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
ろ過処理水受入タンク	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
雨水RO濃縮水移送ラインフ ィルタユニット	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等
貯留設備

検査範囲	寸法検査	外観検査	組立・ 据付検査	備考
モバイルRO膜装置雨水受入タンク基礎外周堰	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
モバイルRO膜装置処理水タンク基礎外周堰	年 月 日	年 月 日	年 月 日	

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等
関連設備

検査範囲	外観検査	組立・ 据付検査	備考
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット 漏えい拡大防止堰	年 月 日	年 月 日	
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット 漏えい検知器	年 月 日	年 月 日	

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等
関連設備

検査範囲	外観検査	組立・ 据付検査	備考
モバイルRO膜装置供給ポンプ	年 月 日	年 月 日	
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタ ユニット供給ポンプ	年 月 日	年 月 日	
ろ過処理水移送ポンプ	年 月 日	年 月 日	

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等
関連設備

検査範囲	材料検査	寸法検査	外観検査	組立・ 据付検査	耐圧・ 漏えい検査	備考
19 主要配管	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等
 関連設備

検査範囲	検査項目		備考
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタ ユニット漏えい拡大防止堰	機能検査 漏えい拡大防止 機能検査	年 月 日	
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタ ユニット漏えい検知器	機能検査 漏えい警報検査	年 月 日	
モバイルRO膜装置供給ポンプ		年 月 日	
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタ ユニット供給ポンプ	性能検査 運転性能検査	年 月 日	
ろ過処理水移送ポンプ		年 月 日	
主要配管	機能検査 通水検査	年 月 日	
		年 月 日	

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等
貯留設備

設備名：汚染水処理設備等
中低濃度タンク

検査範囲	検査項目		備考
Dエリア基礎外周堰 (雨水RO濃縮水受入タンク、ろ過処理水受入タンク)	機能検査 漏えい拡大防止 機能検査	年	
		月 日	
		年	
		月 日	

検査前確認事項

設備名：雨水処理設備等
貯留設備
関連設備
汚染水処理設備等
中低濃度タンク

検査場所：_____

検査項目：共通事項

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていることを確認する。*	記録	月 年 日		
	記録	月 年 日		
	記録	月 年 日		
	記録	月 年 日		
	記録	月 年 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであることを確認する。	記録	月 年 日		
	記録	月 年 日		
	記録	月 年 日		
	記録	月 年 日		
	記録	月 年 日		

※ 使用前検査成績書の「３．検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。

検査前確認事項設備名：雨水処理設備等貯留設備関連設備

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：

検査項目：材料検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		

設備名：雨水処理設備等貯留設備関連設備

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：

検査項目：寸法検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。	記録	校正記録等		

検査前確認事項設備名：雨水処理設備等貯留設備関連設備

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：

検査項目：外観検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		

設備名：雨水処理設備等貯留設備関連設備

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：

検査項目：組立・据付検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
耐圧・漏えい検査で漏えい確認できないフランジ部については適切に締め付けられていることを確認する。	記録	品質記録		
使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。	記録	校正記録等		

検査前確認事項

設備名：雨水処理設備等

貯留設備

関連設備

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

検査項目：耐圧・漏えい検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。	記録	校正記録等		
系統構成が適切であることを確認する。	立会又は記録	現場又は品質記録等		

設備名：雨水処理設備等

貯留設備

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

検査項目：耐圧代替検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。	記録	校正記録等		

検査前確認事項

設備名：雨水処理設備等
関連設備

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：　　

検査項目：性能検査（運転性能検査）

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		

検査前確認事項

設備名 : 雨水処理設備等
 関連設備

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所 : _____

検査項目 : 機能検査（漏えい警報検査）

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。	記録	校正記録等		
検査対象の警報装置が作動していないことを確認する。	立会又は記録	現場又は品質記録		

検査前確認事項

設備名：雨水処理設備等
関連設備

検査年月日：_____年____月____日

検査場所：_____

検査項目：機能検査（漏えい拡大防止機能検査）

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。	記録	校正記録等		

設備名：雨水処理設備等
貯留設備

設備名：汚染水処理設備等
中低濃度タンク

検査年月日：_____年____月____日

検査場所：_____

検査項目：機能検査（漏えい拡大防止機能検査）

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。	記録	校正記録等		
必要な基礎外周堰の高さに影響のある傾斜がないことを確認する。	記録	品質記録		

検査前確認事項

設備名：雨水処理設備等
関連設備

検査年月日：_____年____月____日

検査場所：_____

検査項目：機能検査（通水検査）

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
系統構成が適切であることを確認する。	立会又は記録	現場又は品質記録等		

材料検査記録

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：貯留設備
関連設備

名称		機器番号	材 料	判定基準	結果
モバイルRO膜装置雨水受入タンク	胴板	A221A	SM400A	実施計画のとおりであること。	
		A221B			
モバイルRO膜装置処理水タンク	胴板	A231A	SM400A		
		A231B			
		A231C			
雨水RO濃縮水受入タンク	胴板	A6101A	SM400C		
		A6101B			
ろ過処理水受入タンク	胴板	A6102	SM400C		
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタ容器		D6001A	SM400A		
		D6001B			
		D6002A			
		D6002B			
<p>備 考</p> <p>申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：</p>					

材料検査記録

検査年月日：_____年____月____日

検査場所：_____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

主要配管（モバイルRO膜装置）

名称	材 料	判定基準	結果
モバイルRO膜装置雨水受入タンクからモバイルRO膜装置入口まで	SUS304TP	実施計画のとおりであること。	
	ポリエチレン		
モバイルRO膜装置出口からモバイルRO膜装置処理水タンクまで	SUS304TP		
	ポリエチレン		
備 考 申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：			

材料検査記録

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

主要配管（雨水RO濃縮水移送）

名称	材 料	判定基準	結果
モバイルRO膜装置入口分岐から 雨水RO濃縮水受入タンクまで	STPT410	実施計画のと おりであるこ と。	
	ポリエチレン		
雨水RO濃縮水受入タンクから雨 水RO濃縮水移送ラインフィルタ ユニット入口まで	STPT410		
	合成ゴム		
	ポリエチレン		
雨水RO濃縮水移送ラインフィル タユニット入口から雨水RO濃縮 水移送ラインフィルタユニット出 口まで	STPG370		
雨水RO濃縮水移送ラインフィル タユニット出口からろ過処理水受 入タンクまで	STPT410		
	ポリエチレン		
ろ過処理水受入タンクからRO濃 縮水貯槽入口まで	STPT410		
	合成ゴム		
	ポリエチレン		
備 考： 申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：			

寸法検査記録

検査年月日：_____年____月____日

検査場所：_____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：貯留設備

名称	項目	実施計画 記載値 (mm)	許容寸法 (mm)	判定基準	計測値 (mm)	結果	
モバイルRO膜装 置雨水受入タンク A221A	内径	12,000	1%以下*1	実施計画に記載 されている各部 の主要寸法の計 測値が許容寸法 を満足するこ と。	—*2		
	胴板厚さ	12.0	11.35～12.65				
	底板厚さ	12.0	11.35～12.65				
	高さ	12,012	12,007～12,017				
モバイルRO膜装 置雨水受入タンク A221B	内径	12,000	1%以下*1		—*3		
	胴板厚さ	12.0	11.35～12.65				
	底板厚さ	12.0	11.35～12.65				
	高さ	12,012	12,007～12,017				

備 考

申請者の品質記録により確認
品質記録（名称、日付）：

*1 最大内径と最小内径との差が当該断面の呼び内径の1%以下

*2 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ %）

*3 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ %）

記録確認分については使用した検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

□：確認

寸法検査記録

検査年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所： _____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：貯留設備

名称	項目	実施計画 記載値 (mm)	許容寸法 (mm)	判定基準	計測値 (mm)	結果	
モバイルRO膜装 置処理水タンク A231A	内径	9,000	1%以下*1	実施計画に記載 されている各部 の主要寸法の計 測値が許容寸法 を満足するこ と。	—*2		
	胴板厚さ	12.0	11.35～12.65				
	底板厚さ	12.0	11.35～12.65				
	高さ	12,012	12,007～12,017				
モバイルRO膜装 置処理水タンク A231B	内径	9,000	1%以下*1			—*3	
	胴板厚さ	12.0	11.35～12.65				
	底板厚さ	12.0	11.35～12.65				
	高さ	12,012	12,007～12,017				
モバイルRO膜装 置処理水タンク A231C	内径	9,000	1%以下*1			—*4	
	胴板厚さ	12.0	11.35～12.65				
	底板厚さ	12.0	11.35～12.65				
	高さ	12,012	12,007～12,017				

備考

申請者の品質記録により確認
品質記録（名称、日付）：

- *1 最大内径と最小内径との差が当該断面の呼び内径の1%以下
- *2 内径については、最大内径（ _____ mm）、最小内径（ _____ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ _____ %）
- *3 内径については、最大内径（ _____ mm）、最小内径（ _____ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ _____ %）
- *4 内径については、最大内径（ _____ mm）、最小内径（ _____ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ _____ %）

記録確認分については使用した検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

：確認

寸法検査記録

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所 : _____

設備名 : 雨水処理設備等

検査対象 : 貯留設備

名称	項目	実施計画 記載値 (mm)	許容寸法 (mm)	判定基準	計測値 (mm)	結果	
雨水RO濃縮水受 入タンク A6101A	内径	2,500	1%以下*1	実施計画に記載 されている各部 の主要寸法の計 測値が許容寸法 を満足するこ と。	—*2		
	胴板厚さ	9.0	6.6~9.9				
	底板厚さ	12.0	9.5~13.0				
	高さ	4,074	4,047~4,101				
雨水RO濃縮水受 入タンク A6101B	内径	2,500	1%以下*1			—*3	
	胴板厚さ	9.0	6.6~9.9				
	底板厚さ	12.0	9.5~13.0				
	高さ	4,074	4,047~4,101				
ろ過処理水受入タ ンク A6102	内径	2,500	1%以下*1			—*4	
	胴板厚さ	9.0	6.6~9.9				
	底板厚さ	12.0	9.5~13.0				
	高さ	2,574	2,547~2,601				

備 考

申請者の品質記録により確認
品質記録（名称、日付）：

- *1 最大内径と最小内径との差が当該断面の呼び内径の1%以下
- *2 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ %）
- *3 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ %）
- *4 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ %）

記録確認分については使用した検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

: 確認

寸法検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所： _____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

名称	項目	実施計画 記載値 (mm)	許容寸法	判定基準	計測値 (mm)	結果	
雨水R O濃縮水移送 ラインフィルタ容器 D6001A	内径	750	1%以下*1	実施計画に記載 されている各部 の主要寸法の計 測値が許容寸法 を満足するこ と。	—*2		
	胴板厚さ	9.0	6.6～9.8				
	鏡板厚さ	12.0	8.5～14.6				
	高さ	941	921.4～966.3				
雨水R O濃縮水移送 ラインフィルタ容器 D6001B	内径	750	1%以下*1			—*3	
	胴板厚さ	9.0	6.6～9.8				
	鏡板厚さ	12.0	8.5～14.6				
	高さ	941	921.4～966.3				
雨水R O濃縮水移送 ラインフィルタ容器 D6002A	内径	750	1%以下*1			—*4	
	胴板厚さ	9.0	6.6～9.8				
	鏡板厚さ	12.0	8.5～14.6				
	高さ	941	921.4～966.3				
雨水R O濃縮水移送 ラインフィルタ容器 D6002B	内径	750	1%以下*1			—*5	
	胴板厚さ	9.0	6.6～9.8				
	鏡板厚さ	12.0	8.5～14.6				
	高さ	941	921.4～966.3				

備 考

申請者の品質記録により確認

品質記録（名称、日付）：

- *1 最大内径と最小内径との差が当該断面の呼び内径の1%以下
- *2 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ %）
- *3 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ %）
- *4 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ %）
- *5 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の胴内径の1%以下であることを確認。（ %）

記録確認分については使用した検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

：確認

寸法検査記録

検査年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所： _____

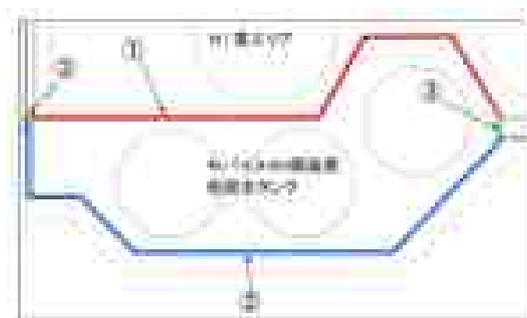
設備名：雨水処理設備等

検査対象：貯留設備

名称	項目	許容寸法 (mm)	判定基準	計測値 (mm)	結果
モバイルRO膜装置雨水受入タンク基礎外周堰	高さ	1000±50	実施計画に記載されている各部の主要寸法の計測値が許容寸法を満足すること。		
モバイルRO膜装置処理水タンク基礎外周堰	高さ	① 959 以上 ② 870 以上 959 未満 ③ 770 以上 870 未満		①	
				②	
			③		

備考

申請者の品質記録により確認
品質記録（名称、日付）：



記録確認分については使用した検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

：確認

寸法検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

主要配管（モバイルRO膜装置）

名称		実施計画 記載値	判定基準	結果
モバイルRO膜装置雨水受入タンクからモバイルRO膜装置入口まで	ポリエチレン	100A 相当	実施計画に記載されている主要寸法のとおりであること。	
		150A 相当		
	SUS304TP	100A/Sch. 40		
		150A/Sch. 40		
		200A/Sch. 40		
	モバイルRO膜装置出口からモバイルRO膜装置処理水タンクまで	ポリエチレン		100A 相当
150A 相当				
SUS304TP		100A/Sch. 40		
		150A/Sch. 40		
備考 申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：				

寸法検査記録

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所 : _____

設備名 : 雨水処理設備等

検査対象 : 関連設備

主要配管（雨水RO濃縮水移送）

名称		実施計画記載値	判定基準	結果
モバイルRO膜装置入口分岐から雨水RO濃縮水受入タンクまで	ポリエチレン	80A 相当	実施計画に記載されている主要寸法のとおりであること。	
		100A 相当		
	STPT410	80A/Sch. 40		
雨水RO濃縮水受入タンクから雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット入口まで	合成ゴム	80A 相当		
	ポリエチレン	80A 相当		
	STPT410	80A/Sch. 40		
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット入口から雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット出口まで	STPG370	65A/Sch. 40		
		80A/Sch. 40		
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット出口からろ過処理水受入タンクまで	ポリエチレン	50A 相当		
		80A 相当		
	STPT410	50A/Sch. 80		
		80A/Sch. 40		
ろ過処理水受入タンクからRO濃縮水貯槽入口まで	合成ゴム	50A 相当		
	ポリエチレン	75A 相当		
		80A 相当		
	STPT410	50A/Sch. 80		
80A/Sch. 40				
<p>備考 申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付） :</p>				

外観検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所： _____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：貯留設備

名称	判定基準	結果
モバイルRO膜装置雨水受入タンク A221A、A221B	機器等の健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないこと。	
モバイルRO膜装置処理水タンク A231A、A231B、A231C		
雨水RO濃縮水受入タンク A6101A、A6101B		
ろ過処理水受入タンク A6102		
<p>備考</p> <p>*は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：</p>		

外観検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所： _____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：貯留設備

関連設備

名称	判定基準	結果
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット	機器等の健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないこと。	
モバイルRO膜装置雨水受入タンク基礎外周堰		
モバイルRO膜装置処理水タンク基礎外周堰		
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット 漏えい拡大防止堰		
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット 漏えい検知器 LE6403、LE6404		
モバイルRO膜装置供給ポンプ C2210A、C2210B		
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット供給ポンプ C6101A、C6101B		
ろ過処理水移送ポンプ C6102		
備考 *は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：		

外観検査記録

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所 : _____

設備名 : 雨水処理設備等

検査対象 : 関連設備
 主要配管

名称		判定基準	結果	
モバイルRO膜装置	モバイルRO膜装置雨水受入タンクから モバイルRO膜装置入口まで	機器等の健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないこと。		
	モバイルRO膜装置出口から モバイルRO膜装置処理水タンクまで			
雨水RO濃縮水移送	モバイルRO膜装置入口分岐から 雨水RO濃縮水受入タンクまで			
	雨水RO濃縮水受入タンクから 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット入口まで			
	雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット入口から 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット出口まで			
	雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット出口から ろ過処理水受入タンクまで			
	ろ過処理水受入タンクから RO濃縮水貯槽入口まで			
<p>備考 *は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認品質記録（名称、日付）：</p>				

組立・据付検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所： _____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：貯留設備

名称	判定基準	結果
モバイルRO膜装置雨水受入タンク A221A、A221B	実施計画のとおりに組立て、 据付けられていること。	
モバイルRO膜装置処理水タンク A231A、A231B、A231C		
雨水RO濃縮水受入タンク A6101A、A6101B		
ろ過処理水受入タンク A6102		
<p>備考</p> <p>*は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：</p>		

組立・据付検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：貯留設備

名称	判定基準	結果
ろ過処理水受入タンク A6102	<ul style="list-style-type: none"> ・タンク基礎に異常な不陸がないこと。 確認事項 <input type="checkbox"/> ：タンク基礎の不陸について （タンク基礎の設計高さ±30mm）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・支持力試験によるタンク基礎底面地盤の支持力が タンクの鉛直荷重より大きいこと。 確認事項 <input type="checkbox"/> ：地盤支持力の確認 タンクの鉛直荷重： kN/m ² タンク基礎底面地盤の支持力： kN/m ²	
備考 申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：		
記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。 <input type="checkbox"/> ：確認		

組立・据付検査記録

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所 : _____

設備名 : 雨水処理設備等

検査対象 : 貯留設備

関連設備

名称	判定基準	結果
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット	実施計画のとおりに組立て、 据付けられていること。	
モバイルRO膜装置雨水受入タンク基礎外周堰		
モバイルRO膜装置処理水タンク基礎外周堰		
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット 漏えい拡大防止堰		
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット 漏えい検知器 LE6403、LE6404		
モバイルRO膜装置供給ポンプ C2210A、C2210B		
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット供給ポンプ C6101A、C6101B		
ろ過処理水移送ポンプ C6102		
<p>備考</p> <p>*は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：</p>		

組立・据付検査記録

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所 : _____

設備名 : 雨水処理設備等

検査対象 : 関連設備

主要配管

名称		判定基準	結果	
モバイルRO膜装置	モバイルRO膜装置雨水受入タンクから モバイルRO膜装置入口まで	実施計画のとおり組立 て、据付けられているこ と。		
	モバイルRO膜装置出口から モバイルRO膜装置処理水タンクまで			
雨水RO濃縮水移送	モバイルRO膜装置入口分岐から 雨水RO濃縮水受入タンクまで			
	雨水RO濃縮水受入タンクから 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット入口まで			
	雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット入口から 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット出口まで			
	雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット出口から ろ過処理水受入タンクまで			
	ろ過処理水受入タンクから RO濃縮水貯槽入口まで			
<p>備考</p> <p>*は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付） :</p>				

耐圧・漏えい検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：貯留設備

名称		最高使用 圧力	検査圧力	保持時間 (分)	結果
モバイルRO膜装置 雨水受入タンク	A221A	静水頭	静水頭		
	A221B	静水頭	静水頭		
モバイルRO膜装置 処理水タンク	A231A	静水頭	静水頭		
	A231B	静水頭	静水頭		
	A231C	静水頭	静水頭		
雨水RO濃縮水受入タンク	A6101A	静水頭	静水頭		
	A6101B	静水頭	静水頭		
ろ過処理水受入タンク	A6102	静水頭	静水頭		
<p>判定基準</p> <p>耐圧検査：検査圧力に耐え、かつ、異常のないこと。</p> <p>漏えい検査：漏えい及び水位の低下がなく貯留できること。</p>					
<p>備考</p> <p>耐圧・漏えい検査の方法：水圧</p> <p>申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：</p> <p>記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。</p> <p><input type="checkbox"/>：確認</p>					

耐圧・漏えい検査記録

検査年月日：_____年____月____日

検査場所：_____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

名称		最高使用 圧力(MPa)	検査圧力 (MPa)	保持時 間(分)	結果
雨水RO濃縮水移送ラインフィル タ容器	D6001A	0.98			
	D6001B	0.98			
	D6002A	0.98			
	D6002B	0.98			
判定基準 耐圧検査：検査圧力に耐え、かつ、異常のないこと。 漏えい検査：耐圧部から漏えいがないこと。					
備考 耐圧・漏えい検査の方法：水压 申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：					
記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。 <input type="checkbox"/> ：確認					

耐圧・漏えい検査記録

検査年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所： _____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

主要配管（モバイルRO膜装置）

名称	材質	最高使用 圧力(MPa)	検査圧力 (MPa)	保持時間 (分)	結果
モバイルRO膜装置雨水受 入タンクからモバイルRO 膜装置入口まで	SUS304TP	0.5			
		0.74			
	ポリエチレン	0.5			
モバイルRO膜装置出口か らモバイルRO膜装置処理 水タンクまで	SUS304TP	0.5			
		0.74			
	ポリエチレン	0.5			

判定基準

耐圧検査：検査圧力に耐え、かつ、異常のないこと。

漏えい検査：耐圧部から漏えいがないこと。

備考

耐圧・漏えい検査の方法：水圧

*は立会を示す。それ以外は申請者の品質記録により確認

品質記録（名称、日付）：

記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

：確認

耐圧・漏えい検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

主要配管（雨水RO濃縮水移送）

名称	材質	最高使用 圧力(MPa)	耐圧検査圧力 又は漏えい検査 圧力 (MPa)	保持時 間(分)	結果
モバイルRO膜装置入口分岐 から雨水RO濃縮水受入タンク まで	STPT410	0.98			
	ポリエチレン	0.5			
		0.98			
雨水RO濃縮水受入タンクから 雨水RO濃縮水移送ライン フィルタユニット入口まで	STPT410	0.98			
	ポリエチレン	0.98			
	合成ゴム	0.98			
雨水RO濃縮水移送ラインフ ィルタユニット入口から雨水 RO濃縮水移送ラインフィル タユニット出口まで	STPG370	0.98			
<p>判定基準</p> <p>耐圧検査：検査圧力に耐え、かつ、異常のないこと。</p> <p>漏えい検査：耐圧部から漏えいがないこと。</p>					
<p>備考</p> <p>耐圧・漏えい検査の方法：水圧</p> <p>*は立会を示す。それ以外は申請者の品質記録により確認</p> <p>品質記録（名称、日付）：</p>					
<p>記録確認については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。</p> <p><input type="checkbox"/>：確認</p>					

耐圧・漏えい検査記録

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所 : _____

設備名 : 雨水処理設備等

検査対象 : 関連設備

主要配管 (雨水RO濃縮水移送)

名称	材質	最高使用 圧力 (MPa)	耐圧検査圧力 又は漏えい検査 圧力 (MPa)	保持時 間 (分)	結果
雨水RO濃縮水移送ライン フィルタユニット出口から ろ過処理水受入タンクまで	STPT410	0.98			
	ポリエチレン	0.98			
ろ過処理水受入タンクから RO濃縮水貯槽入口まで	STPT410	0.98			
	ポリエチレン	0.5			
		0.98			
	合成ゴム	0.98			

判定基準

耐圧検査 : 検査圧力に耐え、かつ、異常のないこと。

漏えい検査 : 耐圧部から漏えいがないこと。

備考

耐圧・漏えい検査の方法 : 水圧

*は立会を示す。それ以外は申請者の品質記録により確認

品質記録 (名称、日付) :

記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

: 確認

耐圧代替検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：貯留設備

名称	機器番号	検査内容	判定基準	結果
モバイルRO膜装置 雨水受入タンク 底板	A221A	局部漏えい検査	発泡又は気泡の成長若しくは気体の噴出がないこと。	
	A221B			
モバイルRO膜装置 処理水タンク 底板	A231A			
	A231B			
	A231C			
モバイルRO膜装置 雨水受入タンク 底板	A221A			磁粉探傷試験
	A221B			
モバイルRO膜装置 処理水タンク 底板	A231A			
	A231B			
	A231C			

備考

申請者の品質記録により確認

品質記録（名称、日付）：

記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

：確認

性能検査（運転性能検査）記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

名称	機器番号	判定基準	結果
モバイルRO膜装置供給ポンプ	C2210A	異音、異臭、振動、漏えい等の異常がないこと。	
	C2210B		
雨水RO濃縮水移送ライン フィルタユニット供給ポンプ	C6101A	異音、振動等の異常がないこと。	
	C6101B		
ろ過処理水移送ポンプ	C6102		
<p>備考</p> <p>*は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：</p>			

機能検査（漏えい拡大防止機能検査）記録

検査年月日：_____年____月____日

検査場所：_____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：貯留設備

設備名：汚染水処理設備等

検査対象：中低濃度タンク

名称	判定基準	結果
Dエリア基礎外周堰 〔雨水RO濃縮水受入タンク、ろ過処理水受入タンク〕	基礎外周堰の堰内容量が実施計画に記載されている容量を満足すること。 実施計画記載容量：_____ 2,679 m ³ 以上 実容量 _____ m ³	
	機器等の健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないこと。	

備考

*は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認
品質記録（名称、日付）：

① 堰内の貯留可能面積：_____ m²

② 基礎外周堰の高さ※（最小値）：_____ m

実容量（m³）＝ ① × ②

※実施計画記載値：0.998 m 以上

記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

：確認

機能検査（通水検査）記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

主要配管

名称		判定基準	結果	
モバイルRO膜装置	モバイルRO膜装置雨水受入タンクから モバイルRO膜装置入口まで	通水でき、かつ、漏えい のないこと。		
	モバイルRO膜装置出口から モバイルRO膜装置処理水タンクまで			
雨水RO濃縮水移送	モバイルRO膜装置入口分岐から 雨水RO濃縮水受入タンクまで			
	雨水RO濃縮水受入タンクから 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット入口まで			
	雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット入口から 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット出口まで			
	雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット出口から ろ過処理水受入タンクまで			
	ろ過処理水受入タンクから RO濃縮水貯槽入口まで			
備考 ＊は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：				

検査用計器一覧表（立会分）

検査年月日： 年 月 日

検査項目	計器名称	計器番号	校正年月日 有効期限	備 考

関連図書及び詳細手順

- 資料 1. 実施計画（抜粋）
- 資料 2. 検査範囲図
- 資料 3. 耐圧・漏えい検査要領
- 資料 4. 漏えい警報検査要領
- 資料 5. 通水検査要領

注) 資料 1. は実施計画の情報をもとに作成、資料 2. 資料 3. 資料 4. 及び資料 5. は申請者の情報をもとに作成した資料である。

実施計画 (抜粋)

2.20.2 基本仕様

検査対象

2.20.2.1 主要仕様

2.20.2.1.1 雨水処理設備、貯留設備（タンク）、関連設備（移送配管、移送ポンプ、雨水・RO濃縮水移送ラインフィルタユニット）

(5) モバイルRO膜装置供給ポンプ（完成品）

台数	10台	2台
容量	48m ³ /h/台（8台）、 <u>30m³/h/台（2台）</u>	

(6) 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット供給ポンプ

台数	2台	2台
容量	30m ³ /h/台	

(7) ろ過処理水移送ポンプ

台数	1台	1台
容量	20m ³ /h	

(8) 雨水受入タンク（モバイルRO膜装置排水受入タンク、純水化処理RO膜装置排水受入タンク）

タンク型式	円柱型	
合計容量（公称）	2400m ³	
基数	2基	2基
容量（単基）	1200m ³ /基	
材料（鋼板）	S400A	
寸法		
内径	12000mm	
高さ	12012mm	
厚さ	底板 12mm、鋼板 12mm	

(9) 処理水タンク (モバイルRO濃縮処理水タンク、淡水化処理RO濃縮処理水タンク)

タンク型式	溶接型	
合計容量 (公称)	2100m ³	
基 数	3基	3基
容 量 (単基)	700m ³ /基	
材 料 (鋼板)	SM400A	
寸 法 内 径	9000mm	
高 さ	12012mm	
厚 さ	底板 12mm、鋼板 12mm	

(10) 雨水RO濃縮水受入タンク

タンク型式	溶接型	
合計容量 (公称)	36m ³	
基 数	2基	2基
容 量 (単基)	18m ³ /基	
材 料 (鋼板)	SM400C	
寸 法 内 径	2500mm	
高 さ	4074mm	
厚 さ	底板 12mm、鋼板 9mm	

(11) ろ過処理水受入タンク

タンク型式	溶接型	
合計容量 (公称)	10m ³	
基 数	1基	1基
容 量 (単基)	10m ³ /基	
材 料 (鋼板)	SM400C	
寸 法 内 径	2500mm	
高 さ	2074mm	
厚 さ	底板 12mm、鋼板 9mm	

(12) 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット

基 数	1基	1基
材 料	SM400A (雨水RO濃縮水移送ラインフィルタ容器)	

表2. 36. 1 雨水処理設備等の主要配管仕様
 (1) モバイルRO膜装置

名 称	仕 様	
①モバイルRO膜装置雨水受入タンクからモバイルRO膜装置入口まで	呼び径	80A 相当
	材質	合成ゴム
	最高使用圧力 最高使用温度	0.5MPa 40℃
	呼び径	75A 相当, <u>100A 相当,</u> <u>150A 相当</u>
	材質	<u>ポリエチレン</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.5MPa</u> 40℃
	呼び径/厚さ	80A/Sch. 40 <u>100A/Sch. 40</u> <u>150A/Sch. 40</u> <u>200A/Sch. 40</u>
	材質	<u>SUS304TP</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.5MPa, 0.74MPa</u> 40℃
③モバイルRO膜装置出口からモバイルRO膜装置処理水タンクまで	呼び径	75A 相当, <u>100A 相当,</u> <u>150A 相当</u>
	材質	<u>ポリエチレン</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.5MPa</u> 40℃
	呼び径/厚さ	<u>100A/Sch. 40</u> <u>150A/Sch. 40</u>
	材質	<u>SUS304TP</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.5MPa, 0.74MPa</u> 40℃

(4) 雨水RO濃縮水移送

名 称	仕 様	
⑪モバイルRO膜装置入口分岐から雨水RO濃縮水受入タンクまで	呼び径	75A 相当, <u>80A 相当</u> , <u>100A 相当</u>
	材質 最高使用圧力 最高使用温度	<u>ポリエチレン</u> <u>0.5MPa, 0.98MPa</u> 40°C
	呼び径/厚さ	<u>80A/Sch. 40</u>
	材質 最高使用圧力 最高使用温度	<u>STPT410</u> <u>0.98MPa</u> 40°C
⑫雨水RO濃縮水受入タンクから雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット入口まで	呼び径	<u>80A 相当</u>
	材質 最高使用圧力 最高使用温度	<u>合成ゴム</u> <u>0.98MPa</u> 40°C
	呼び径	<u>80A 相当</u>
	材質 最高使用圧力 最高使用温度	<u>ポリエチレン</u> <u>0.98MPa</u> 40°C
	呼び径/厚さ	<u>80A/Sch. 40</u>
	材質 最高使用圧力 最高使用温度	<u>STPT410</u> <u>0.98MPa</u> 40°C
⑬雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット入口から雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット出口まで	呼び径/厚さ	<u>65A/Sch. 40</u> <u>80A/Sch. 40</u>
	材質 最高使用圧力 最高使用温度	<u>STPG370</u> <u>0.98MPa</u> 40°C
⑭雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット出口からろ過処理水受入タンクまで	呼び径	<u>50A 相当, 80A 相当</u>
	材質 最高使用圧力 最高使用温度	<u>ポリエチレン</u> <u>0.98MPa</u> 40°C
	呼び径/厚さ	<u>50A/Sch. 80</u> <u>80A/Sch. 40</u>
	材質 最高使用圧力 最高使用温度	<u>STPT410</u> <u>0.98MPa</u> 40°C
	呼び径	<u>50A 相当</u>
⑮ろ過処理水受入タンクからRO濃縮水貯槽※入口まで	材質 最高使用圧力 最高使用温度	<u>合成ゴム</u> <u>0.98MPa</u> 40°C
	呼び径	<u>50A 相当</u>

	呼び径 材質 最高使用圧力 最高使用温度	<u>75A 相当, 80A 相当</u> <u>ポリエチレン</u> <u>0.5MPa, 0.98MPa</u> 40°C
	呼び径/厚さ 材質 最高使用圧力 最高使用温度	<u>50A/Sch. 80</u> <u>80A/Sch. 40</u> <u>STPT410</u> <u>0.98MPa</u> 40°C

添付資料—4—

雨水処理設備等の具体的な安全確保策

1. 放射性物質漏えい防止等に対する考慮

(2) 漏えい検知・漏えい拡大防止

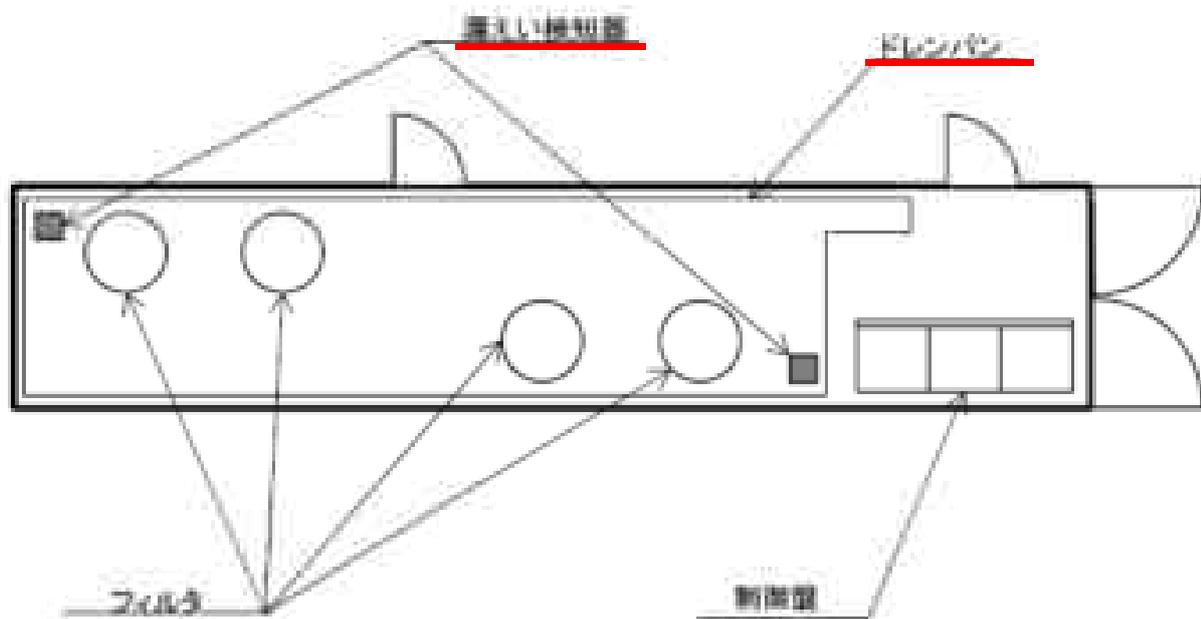
表—2— 雨水Rの濃縮水移送ラインフィルタユニット漏えい拡大防止 仕様値（設計値）

対象設備	総幅(a)	横幅(a)	高さ(a)	面積(a ²)	保有水量(a ³)
雨水Rの濃縮水移送ラインフィルタユニット ※1.2.3	2.2	0.05	0.2	3.9	<u>12.0</u>

※1 漏えい検知器の検出位置（前面からの高さ）：10mm

※2 漏えい検知器の個数：1台→2基割

※3 壁には強度性の高いシーリング材を巻掛する



図—2— 漏えい検知器の設置場所（雨水Rの濃縮水移送ラインフィルタユニット）

添付資料-3

雨水処理設備等に係る確認事項

表-2 確認事項

(雨水受入タンク、処理水タンク、雨水RO濃縮水受入タンク、ろ過処理水受入タンク、雨水調圧タンク^{※1}、中継タンク^{※2})

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度 ・耐震性	材料確認	使用材料を材料証明書により確認する。	実施計画に記載の材料が使用されていること。
	寸法確認	主要寸法(板厚、内径、高さ)を確認する。	実施計画の記載とおりにあること。
	外観確認	タンク本体(塗装状態含む)の外観を確認する。	有意味な欠陥がないこと。
	据付確認	組立状態及び据付状態を確認する。	組立状態及び据付状態に異常がないこと。
	耐圧・漏えい確認	設計・建設規格に基づき耐圧・漏えい試験を行う。	各部からの有意味な漏えいおよび水位の低下がないこと。

※1：固定式又は浮体式のタンク

※2：遊水池を含む

表-4 確認事項

(a) ハイ圧的模装置供給ポンプ^{※1}、(b) 模装置供給ポンプ^{※2}、濃縮水移送ポンプ^{※3}、集水ピット取出ポンプ^{※4}、雨水回収タンク移送ポンプ^{※5}、中継タンク直送ポンプ、中継タンク移送ポンプ、雨水及び濃縮水移送サインフィニッシュユニット供給ポンプ^{※6}、汚濁処理水移送ポンプ^{※7})等。

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
減価償却 ・耐用性	外観確認	各部の外観を確認する。	有意な欠陥がないこと。
	物量確認	修理の部材数量について確認する。	施工同等の通り施工・取付されていること。
	耐圧・漏れ・漏出	運転圧力で耐圧部分からの漏れの有無を確認する。	耐圧部から漏れがないこと。
付記	運転性能確認	通常運転時に性能確認を行う。	異常、異音、異常振動等がないこと。

※1：ポンプ内蔵に設置されているものは、耐圧・漏れ・及び運転性能確認は可能を範囲で実施する。

※2：集水ピット内蔵に設置されており、耐圧・漏れ・及び運転性能確認は可能を範囲で実施する。

※3：汚水処理設備等に関する工費を減価率を算出するため、多量設の修理対象となる機内品を引用した過去実績を実施した上で、減価率補正を実施する。

表一五 確認事項(鋼管) ^(注)

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度・耐震性	材料確認	実施計画に記載した主な材料について、材料証明書または納品書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	寸法確認	実施計画に記載した主要寸法について、材料証明書または納品書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	外観確認	各部の外観について、立会いまたは記録により確認する。	有意な欠陥がないこと。
	図付確認	機器が図面のとおり取付けていることを立会いまたは記録により確認する。	図面のとおり施工・取付けていること。
	耐圧・漏えい確認	最高使用圧力の1.5倍で一定時間保持後、耐圧力に耐えていること。また、耐圧部からの漏えいがないことを立会いまたは記録により確認する。	最高使用圧力の1.5倍に耐え、かつ構造物の変形等がないこと。また、耐圧部から漏えいがないこと。
機能・性能	通水ができることを立会いまたは記録により確認する。	通水ができること。	

(注) 高水圧地層等に関する主要な確認事項を確認するため、本施設の地層特長となる構内止水を用いた通水試験を実施した上で、使用前検査を実施する。

表-6 確認事項（ポリエチレン管）^{※1}

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度・耐震性	材料確認	実施計画に記載した材料について、製品検査成績書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	寸法確認	実施計画に記載した主要寸法（外径相当）について、製品検査成績書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	外観確認	各部の外観について、立会いまたは記録により確認する。	有意な欠陥がないこと。
	留付確認	機器が図面のとおりに取り付けていることを立会いまたは記録により確認する。	図面のとおり施工・留付していること。
	耐圧・漏えい確認	製品の最高使用圧力以上で一定時間保圧後、耐圧に耐えていること。また、耐圧部からの漏えいがないことを立会いまたは記録により確認する。	製品の最高使用圧力に耐え、かつ構造物の変形等がないこと。また、耐圧部から漏えいがないこと。
機能・性能	通水ができることを立会いまたは記録により確認する。	通水ができること。	

※1：雨水処理設備等に関する主要な確認事項を確認するため、本施設の処理対象となる雨水処理を用いた通水試験を実施した上で、使用状態を確認する。

表-8. 確認事項（合成ゴム管）^{※1}

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度・耐震性	材料確認	実施計画に記載した材料について、製品検査成績書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	寸法確認	実施計画に記載した主要寸法（外径類品）について、製品検査成績書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	外観確認	各部の外観について、立会いまたは記録により確認する。	有意な欠陥がないこと。
	取付確認	機器が両面のとおりに取付ていることを立会いまたは記録により確認する。	両面のとおり施工・取付ていること。
	耐圧・漏えい確認	製品の最高使用圧力の1.5倍で一定時間保持後、同圧力に耐えていること。また、耐圧部からの漏えいがないことを立会いまたは記録により確認する。	製品の最高使用圧力の1.5倍に耐え、かつ構造物の変形等がないこと。また、耐圧部から漏えいがないこと。
機能・性能	透水確認	透水ができることを立会いまたは記録により確認する。	透水ができること。

※1：従来の埋設管に用いられていた管の確認事項を確認するため、本管の仕様等となる種内雨水を用いた透水試験を実施した上で、使用の検査を受ける。

表一〇 確認事項 (煙戸、漏えい検知器)

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
漏えい防止	寸法確認	実施計画に記載されている 横の主要寸法を確認する。	実施計画のとおりである こと。
	外觀確認	各部の外觀を確認する。	有意な欠陥がないこと。
	据付確認	横、漏えい検知器の据付位 置、据付状態について確認す る。	実施計画のとおり据付さ れていること。
性能	機能確認	横の外觀を確認する。 漏えい検知器に漏えい水を 模擬し検出器の動作状況を 確認する。	横に有意な欠陥がないこ と。 水の漏えいが検知でき、警 報ランプが点灯表示され ること。

注1：据付資料-4、表1。表2のユニット漏えい防止防炎壁。

表-11: 確認事項(専門その他の設備)

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度・耐震性	寸法確認	基礎外周壁の高さを確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	取付確認	タンク基礎の取付について確認する。	異常な不備がないこと。
	外観確認	基礎外周壁の外観を確認する。	有意な欠陥がないこと。
	地盤支持力確認	支持力試験にてタンク基礎の地盤支持力を確認する。	必要な支持力を有していること。

※1: 実施計画外変更部で(2019年5月)から新設する範囲の基礎は11階、10階、9階、8階および7階まで5階のタンク壁。

※2: 寸法確認の対象となるタンク設置エリアの基礎外周壁高さ(表1-1)に示す。

表1-1: 各タンク設置エリアの基礎外周壁の高さ

タンク名称	基礎外周壁高さ (mm)
H6 (1) 雨水回収タンク	1000 以上
雨水回収タンク ^{※1}	① 1917 以上 ② 1700 以上 1917 未満 ③ 1500 以上 1700 未満
H3、H5 雨水回収タンク	1000 ±50
モバイルRO膜装置雨水受入タンク	1000 ±50
モバイルRO膜装置処理水タンク ^{※2}	① 970 以上 ② 870 以上 970 未満 ③ 770 以上 870 未満
雨水RO濃縮水受入タンク、ろ過処理水受入タンク	900 以上

※1: 別添1参照

※2: 別添2参照

別図-2 モバイルRO膜装置処理水タンク場詳細図

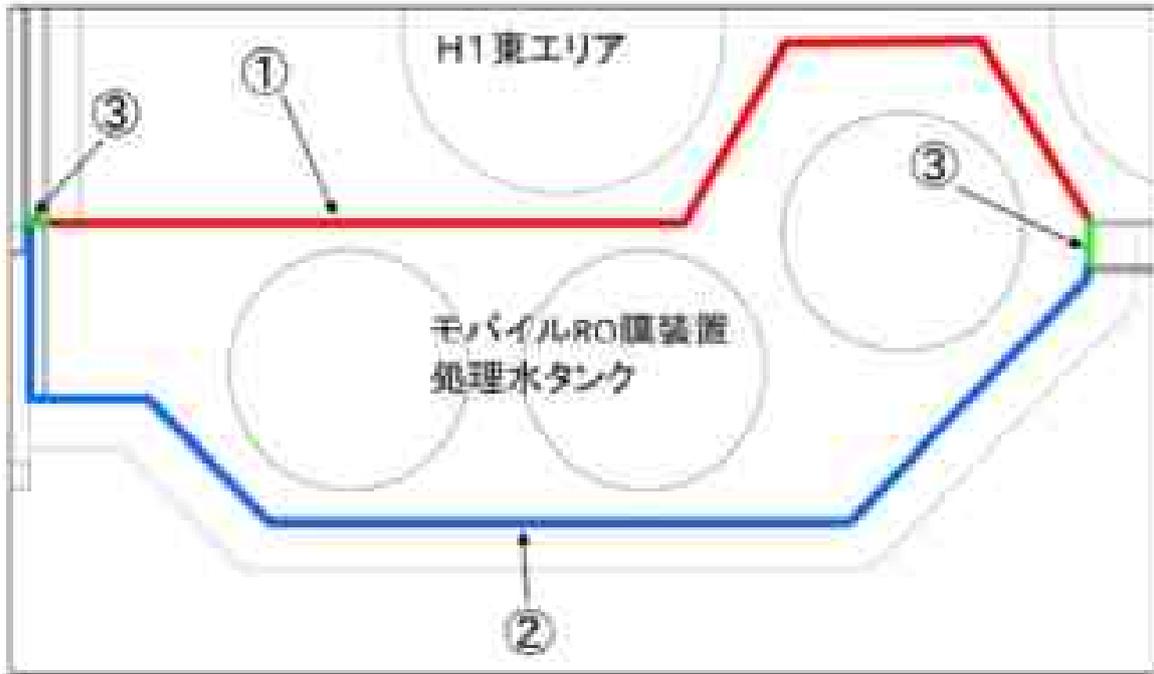


表-1.2 確認事項（出水R.O.濃縮水移送ラインフィルタ容器）

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度・耐震性	材料確認	使用材料を材料証明書により確認する。	実施計画に記載の材料が使用されていること。
	寸法確認	主要寸法（板厚、内径、高さ）を確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	外観確認	容器本体（塗装状態含む）の外観を確認する。	大きな欠陥がないこと。
	据付確認	組立状態及び据付状態を確認する。	組立状態及び据付状態に異常がないこと。
	耐圧・漏えい確認	最高使用圧力の1.5倍で一定時間保持後、同圧力に耐えていること。また、耐圧部からの漏えいがないことを立会いまたは記録により確認する。	最高使用圧力の1.5倍に耐え、かつ構造物の変形等がないこと。また、耐圧部から漏えいがないこと。

1.3 タンク基礎の支持力

(1) 評価方法

タンクの鉛直荷重と相対支持力を比較して評価を行う。支持力の算定式は「社団法人日本建築協会（2002）『建築構造工学・基礎設計（下巻）』」に基づき算定式を用いる。評価した結果、①タンクの鉛直荷重＜②タンク基礎式固地盤の相対支持力であり、安定性を有していることを確認する。

①タンクの鉛直荷重： $W = m + g$

②タンク基礎式固地盤の相対支持力： $Q_c = A \left(m_1 N_c \gamma_c + k_2 N_s \gamma_s + \frac{1}{2} \gamma_1 \beta_1 N_s \gamma_1 \right)$

m	： 積留荷重
g	： 重力加速度
A	： 有効基礎面積
m_1, β_1	： 基礎の形状係数
k_2	： 埋入れ効果に対する調整係数
γ	： 地盤の単位重
N_c, N_s, N_1	： 荷重の傾斜を考慮した支持力係数
$\gamma_c, \gamma_s, \gamma_1$	： 支持力係数の修正係数に関する修正係数
e	： 土層厚さ ($g = \gamma_s D$)
γ_1, β_1	： 支持地盤及び埋入れ地盤の単位重 ($\gamma_1 = \gamma_s + (1 - \beta_1) \gamma_c$)
γ_s	： 基礎の有効埋入れ係数
γ_c	： 荷重の傾斜を考慮した基礎の有効単位重 ($\gamma_c = \gamma_s - \gamma_1$)
β_1	： 基礎幅
β_2	： 荷重の傾斜角

(2) 管理

地盤改良後、相対支持力算定式（ケースB）²⁾により地盤の強度を算定し、上記式により必要な相対支持力を有していることを確認する。

セランマー（液状）を一定の高さから地盤に自由落下させたときに生ずる衝撃加速度の最大値と地盤改良時地盤と相同させる衝撃加速度を基本原則とした簡易な算定式。

1.4 タンク基礎の寸法

(1) 評価方法

タンクの設置高さ³⁾が、設計高さに対して許容値以内⁴⁾であることを確認する。

※ 設計高さ±30mm（社内基準値）

(2) 管理

タンク基礎高さ（トップ）を測量し、当該高さが設計高さに対して±30mm以内であることを確認する。

別冊 1-4

雨水処理設備等に係わる補足説明

Ⅱ. 雨水処理設備等の寸法許容範囲について

1. 設備仕様

1.1 雨水受入タンク

(1) モバイルRO膜装置雨水受入タンク 溶接型

	主要寸法 [mm]	寸法許容範囲
内径	12,000	JISB による公差 (1.0%) *1
鋼板厚さ	12.0	メーカー基準 (±0.65mm)
底板厚さ	12.0	メーカー基準 (±0.65mm)
高さ	12,012	メーカー基準 (±5mm)

1.2 処理水タンク

(1) モバイルRO膜装置処理水タンク 溶接型

	主要寸法 [mm]	寸法許容範囲
内径	9,000	JISB による公差 (1.0%) *1
鋼板厚さ	12.0	メーカー基準 (±0.65mm)
底板厚さ	12.0	メーカー基準 (±0.65mm)
高さ	12,012	メーカー基準 (±5mm)

1.3 雨水RO濃縮水受入タンク

	主要寸法 [mm]	寸法許容範囲
内径	2,500	JISB による公差 (1.0%) *1
鋼板厚さ	9.0	メーカー基準 (+0.9mm, -2.8mm)
底板厚さ	12.0	メーカー基準 (+1.0mm, -2.5mm)
高さ	4,074	メーカー基準 (±27mm)

* 1 最大内径と最小内径との差が当該断面の呼び内径の 1%以下

1.5 汚濁処理水受入タンク

	主要寸法[mm]	寸法許容範囲
内径	2,500	JSME による公差 (1.0%) *1
胴板厚さ	9.0	メーカー基準 (+0.9mm, -2.4mm)
底板厚さ	12.0	メーカー基準 (+1.6mm, -2.5mm)
高さ	2,574	メーカー基準 (±27mm)

1.6 排水口の濃縮水移送ラインフィルタ容器

	主要寸法[mm]	寸法許容範囲
内径	750	JSME による公差 (1.0%) *1
胴板厚さ	9.0	メーカー基準 (+0.9mm, -2.4mm)
筒板厚さ	12.0	メーカー基準 (+2.6mm, -3.5mm)
高さ	941	メーカー基準 (+25.5mm, -19.6mm)

*1 最大内径と最小内径との差が当該断面の呼び内径の 1%以下

Ⅲ 雨水処理設備等の耐圧検査条件について

1. 耐圧検査条件

検査範囲		最高使用 圧力 (MPa)	耐圧検査圧力 および検査圧力 (MPa)	耐圧検査保持 時間 (分)	水圧・気圧 の区分
主要配管	<u>鋼管</u>	<u>0.5</u>	<u>0.75</u>	<u>10</u>	<u>水圧</u>
		<u>0.74</u>	<u>1.11</u>		
		<u>0.98</u>	<u>1.47</u>		
	鋼管（伸縮継 手）	0.74	1.50	10	水圧
	<u>ポリエチレン管</u>	<u>0.5</u>	<u>1.0</u>	<u>60</u>	<u>水圧</u>
		<u>0.74</u> <u>0.98</u>			
<u>合成ゴム管</u>	<u>0.98</u>	<u>1.47</u>	<u>10</u>	<u>水圧</u>	
<u>雨水受入タンク</u>	静水頭	静水頭	<u>10</u>	<u>水圧</u>	
<u>処理水タンク</u>					
<u>雨水Rの濃縮水受入タンク</u>					
<u>ろ過処理水受入タンク</u>					
雨水回収タンク					
<u>雨水Rの濃縮水移送ライン</u> <u>フィルタ容器</u>	<u>0.98</u>	<u>1.47</u>	<u>10</u>	<u>水圧</u>	

2.5 汚染水処理設備等

添付資料-1.2

中低濃度タンクの設計・確認の方針について

副紙-11

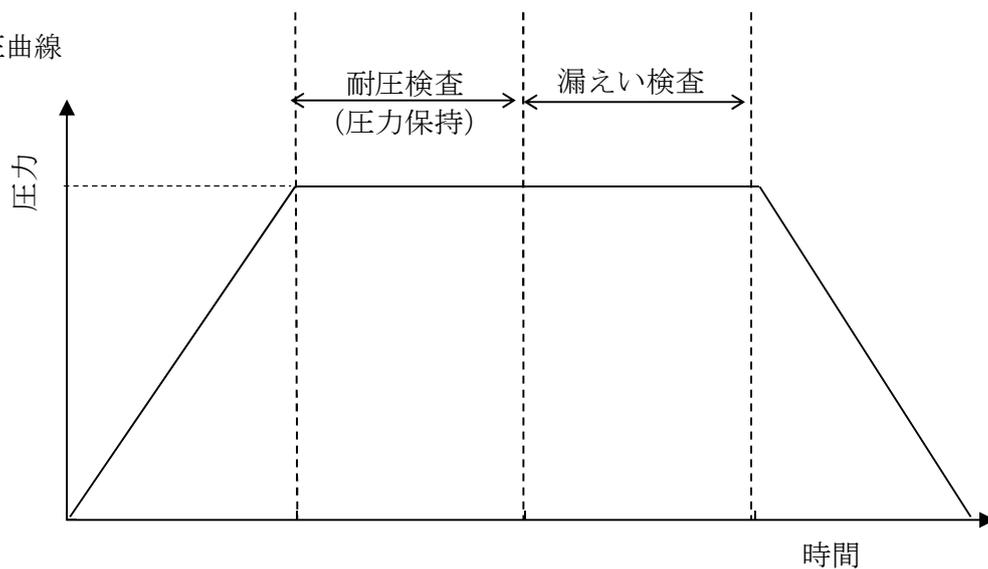
中低濃度タンク（円筒型）に係る確認事項

表-1-1-1 構造強度及び機能・性能に関する確認事項（中低濃度タンク）

確認事項	確認項目	確認内容	判定
構造強度・耐腐性	材料確認	使用材料及材料品質により確認する。溶接部・溶接弁については、溶接記録、製法仕様にて確認する。	実施計画に企画の材料が使用されていること。 溶接部及び溶接弁は製法仕様（最高使用圧力）がタンクの最高許圧以上であること。
	寸法確認	企画仕様（図面、内径、高さ）を確認する。	実施計画の寸法と一致であること。
	強度確認	タンク本体（溶接部を含む）、溶接部・溶接弁の性能を確認する。	必要な値がないこと。
	腐食確認	腐食対策（アクリルシート貼付によるシート工法等）及び腐食対策を確認する。	腐食対策及び腐食対策の効果が認められること。
		シート貼付の有効性について確認する。	効果が認められること。
	耐久・漏えい・破損	①～④・⑥～⑧・⑨をクリア 漏れ量以上に、一定時間（アクリルシート工法の場合、溶接型タンクの場合、10時間以上）保持した後、試験圧力に耐え、かつ、漏れがないことを確認する。 ⑤・⑩は別のタンク 設計・検査仕様に基づき試験・漏れ試験を行う。 ⑥～⑧・⑨をクリア 計画工法仕様に基づき試験・漏れ試験を行う。	試験結果の報告書等により漏れ試験の結果がないこと。
	溶接部・溶接弁の検査	実物の試験にてタンク基盤の溶接部・溶接部の性能を確認する。	必要な試験を実施していること。
機能・性能	試験確認	試験圧力について、企画仕様書中の試験圧力がアクリルシート工法の場合にタンク本体が耐えられることを確認する。	企画仕様書中の試験圧力がアクリルシート工法の場合にタンク本体が耐えられること。
	寸法確認	漏れ試験の長さ、もしくは埋内寸法を確認する。試験圧力に耐えるための寸法は最低許容値の長さ、試験圧力に耐えるための寸法は埋内寸法を確認する。	企画仕様書に報告する長さ、もしくは埋内寸法があること。（試験圧力に耐えるための寸法は最低許容値の長さ、試験圧力に耐えるための寸法は埋内寸法を確認する。）
	強度確認	企画仕様書の性能を確認する。	必要な値がないこと。
	材質確認	漏れがなく貯留できることを確認する。	タンク及び配管材質（溶接部、溶接部、溶接部、溶接部）に漏れがないこと。

耐圧・漏えい検査要領

1. 昇降圧曲線



2. 検査条件

検査範囲		最高使用圧力 (MPa)	耐圧検査圧力 漏えい検査圧力 (MPa)	耐圧検査 保持時間 (分)	水圧・気 圧の 区分
雨水RO濃縮水移送ラインフィルタ容器		0.98	1.47	10	水圧
モバイル膜装置雨水受入タンク モバイル膜装置処理水タンク 雨水RO濃縮水受入タンク ろ過処理水受入タンク		静水頭	静水頭	10	水圧
主要配管	鋼管	0.5	0.75	10	水圧
		0.74	1.11		
		0.98	1.47		
	ポリエチレン管	0.5	1.0	60	水圧
		0.98			
	合成ゴム管	0.98	1.47	10	水圧

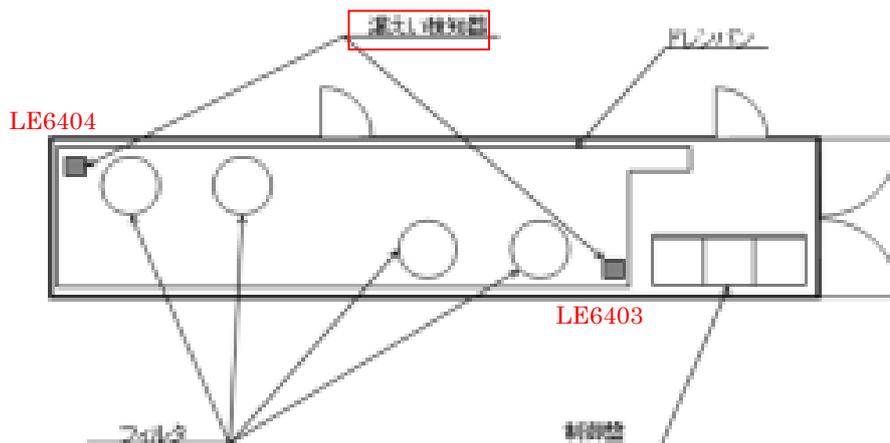
検査条件は、実施計画別冊 1 4 「Ⅲ 雨水処理設備等の耐圧検査条件について」による。

漏えい警報検査要領

1. 漏えい警報検査

漏えい検知器が所定の水位にて漏えいを検知し、警報ランプが点灯表示することを確認する。
漏えい検出器の設置位置、検出位置は以下のとおり。

(1) 設置位置



(2) 検出位置

漏えい検知器の検出位置(設定値)：堰底面から水位 10mm

漏えい検知器の検出位置(設定値)の許容範囲：水位設定値+5mm※

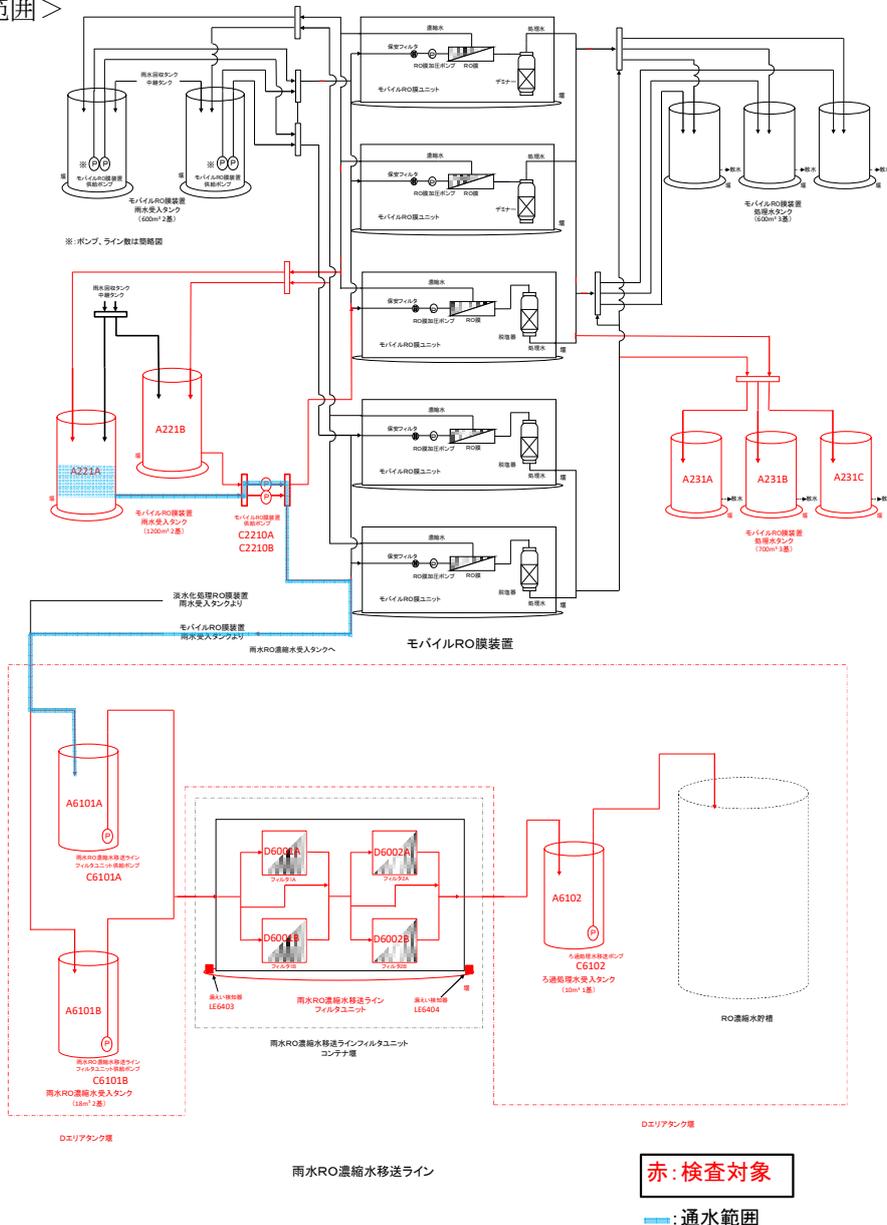
※ 許容範囲は事業者の管理値

通水検査要領

通水検査は以下のとおり実施する。

1 モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m³) → 雨水RO濃縮水受入タンク A

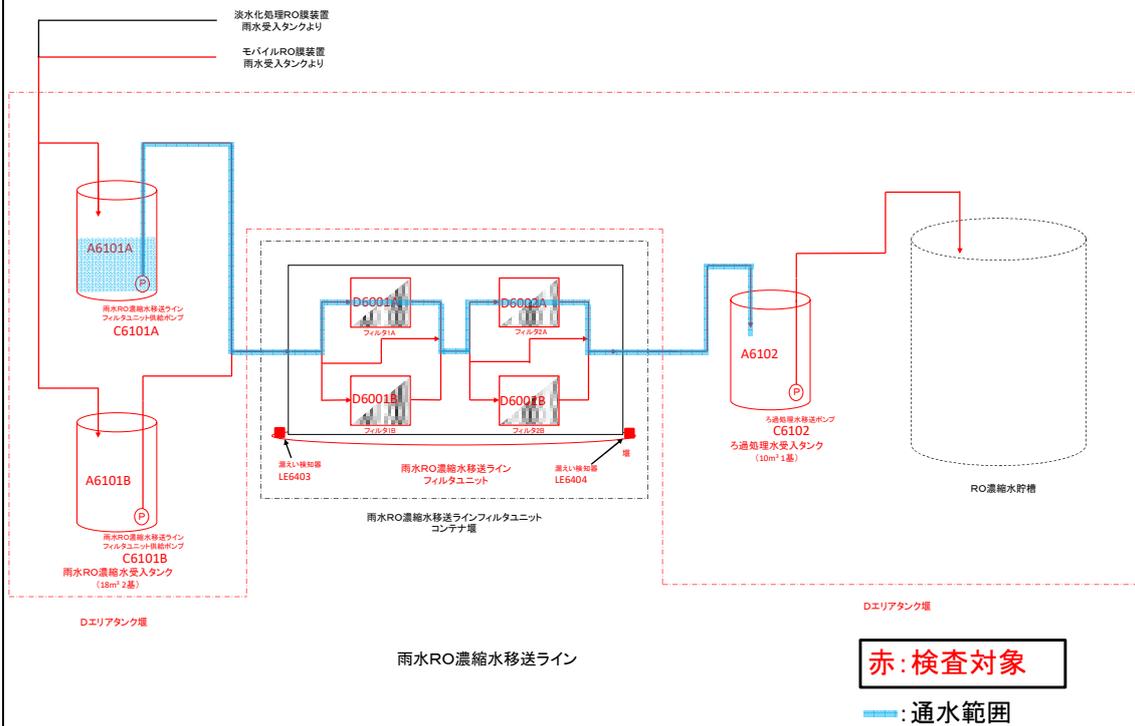
<通水範囲>



- | | |
|-----|---|
| (1) | モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m ³) から雨水RO濃縮水受入タンク A までの系統構成を実施する。 |
| (2) | モバイルRO膜装置供給ポンプ A (C2210A) を起動する。 |
| (3) | 雨水RO濃縮水受入タンク A へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (4) | モバイルRO膜装置供給ポンプ A (C2210A) を停止する。 |

3 雨水RO濃縮水受入タンク A→ろ過処理水受入タンク

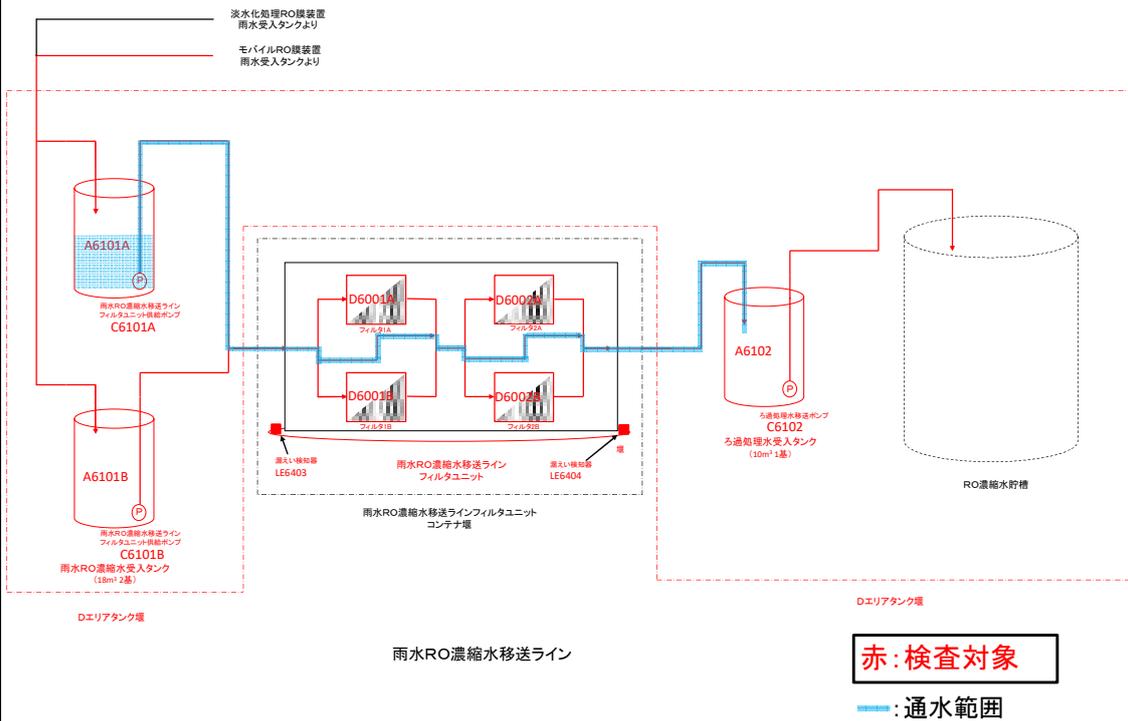
< 通水範囲 >



- (1) 雨水RO濃縮水受入タンク Aからろ過処理水受入タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット供給ポンプ A (C6101A)を起動する。
- (3) ろ過処理水受入タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット供給ポンプ A (C6101A)を停止する。

4 雨水RO濃縮水受入タンクA→フィルタバイパス→ろ過処理水受入タンク

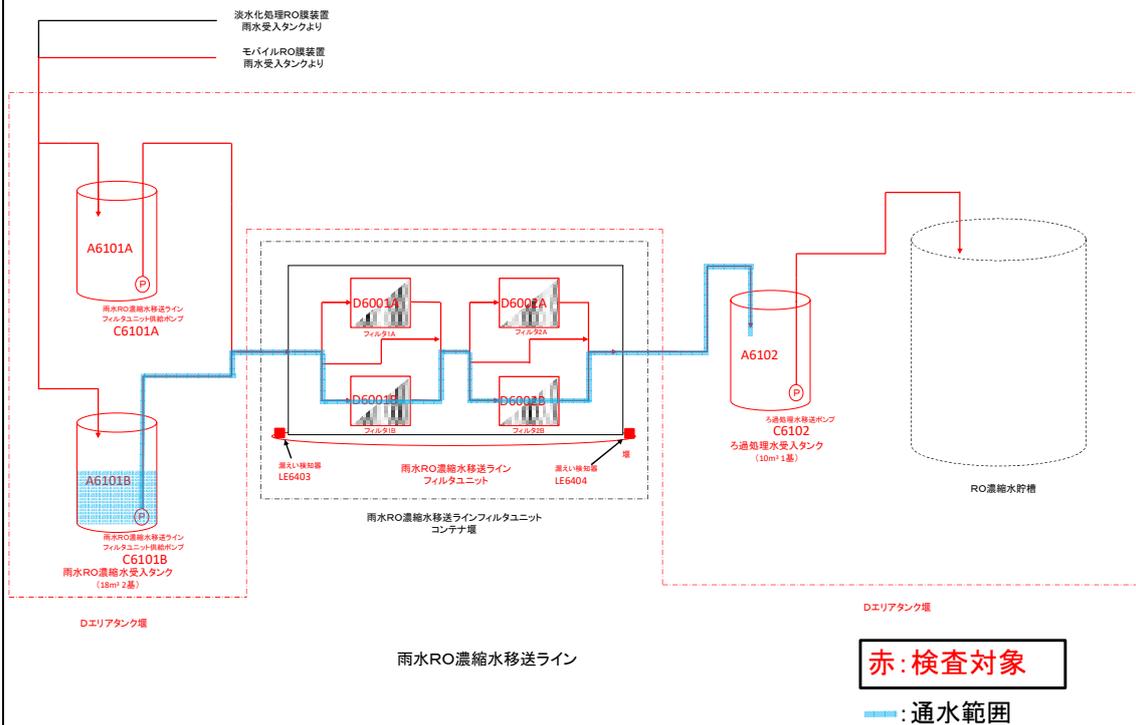
<通水範囲>



- (1) 雨水RO濃縮水受入タンクAから雨水RO濃縮水移送ラインフィルタをバイパスし、ろ過処理水受入タンクまで通水する系統構成を実施する。
- (2) 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット供給ポンプA (C6101A) を起動する。
- (3) ろ過処理水受入タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット供給ポンプA (C6101A) を停止する。

5 雨水RO濃縮水受入タンクB→ろ過処理水受入タンク

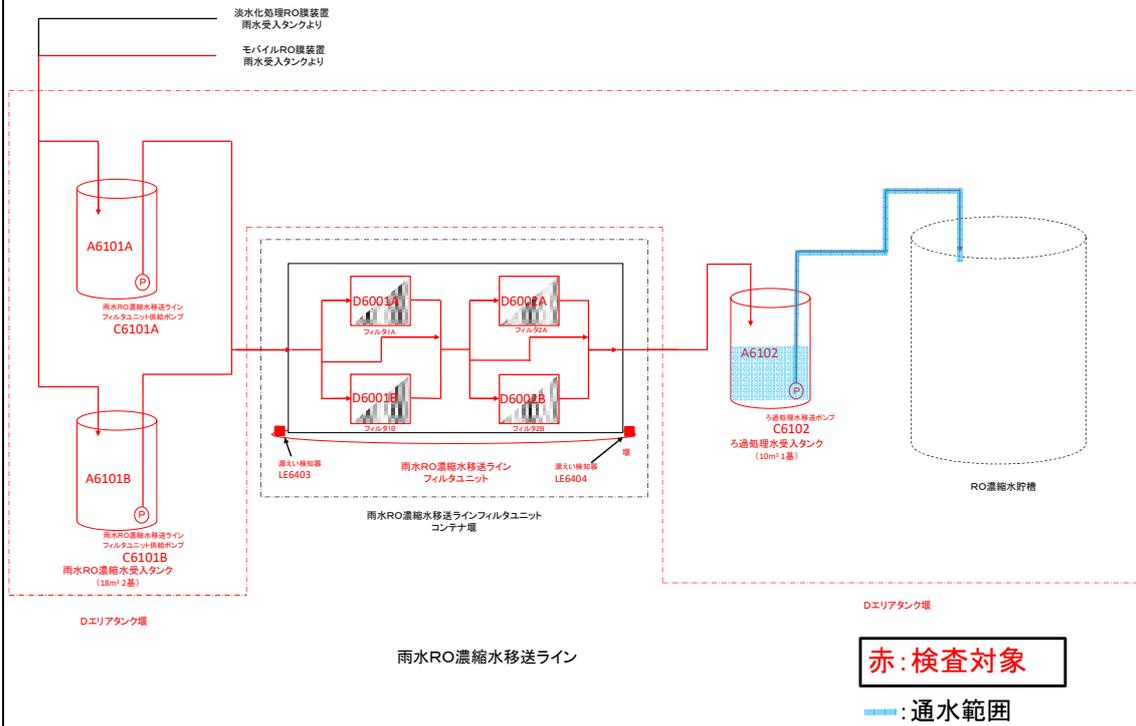
<通水範囲>



- (1) 雨水RO濃縮水受入タンクBからろ過処理水受入タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット供給ポンプB(C6101B)を起動する。
- (3) ろ過処理水受入タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット供給ポンプB(C6101B)を停止する。

6 ろ過処理水受入タンク→RO濃縮水貯槽 (D-D 7)

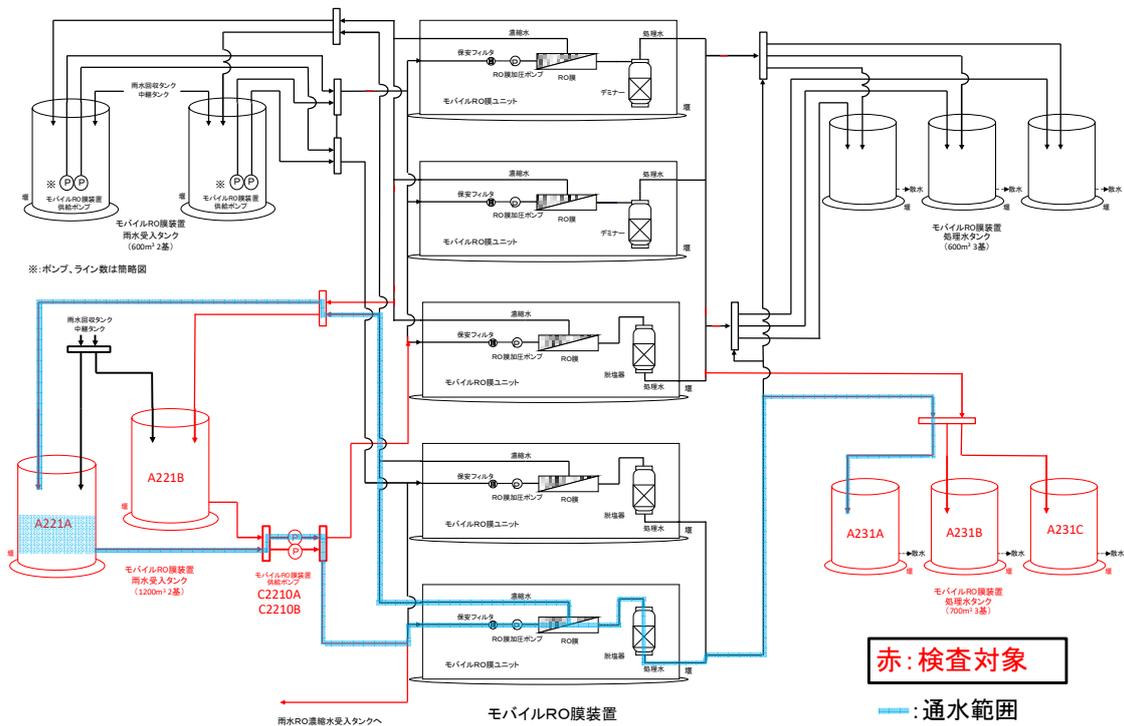
<通水範囲>



- | | |
|-----|---|
| (1) | ろ過処理水受入タンクからRO濃縮水貯槽 (D-D 7) までの系統構成を実施する。 |
| (2) | ろ過処理水移送ポンプ(C6102)を起動する。 |
| (3) | RO濃縮水貯槽 (D-D 7) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (4) | ろ過処理水移送ポンプ(C6102)を停止する。 |

7 モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m³) →
モバイルRO膜装置処理水タンク A (700m³)

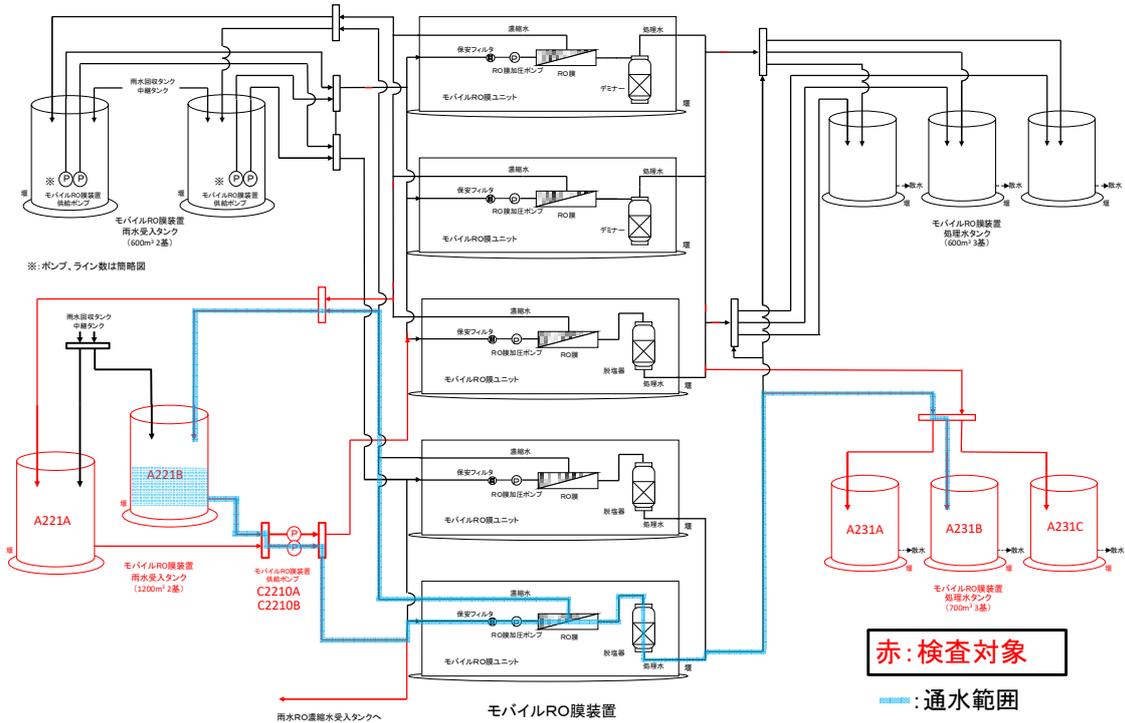
< 通水範囲 >



- | | |
|-----|---|
| (1) | モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m ³) からモバイルRO膜装置処理水タンク A (700m ³) までの系統構成を実施する。 |
| (2) | モバイルRO膜装置供給ポンプ A (C2210A) を起動する。 |
| (3) | モバイルRO膜装置 E を起動する。 |
| (4) | モバイルRO膜装置処理水タンク A (700m ³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (5) | モバイルRO膜装置 E からの再循環により、モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m ³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (6) | モバイルRO膜装置 E を停止する。 |
| (7) | モバイルRO膜装置供給ポンプ A (C2210A) を停止する。 |

8 モバイルRO膜装置雨水受入タンク B (1200m³) →
モバイルRO膜装置処理水タンク B (700m³)

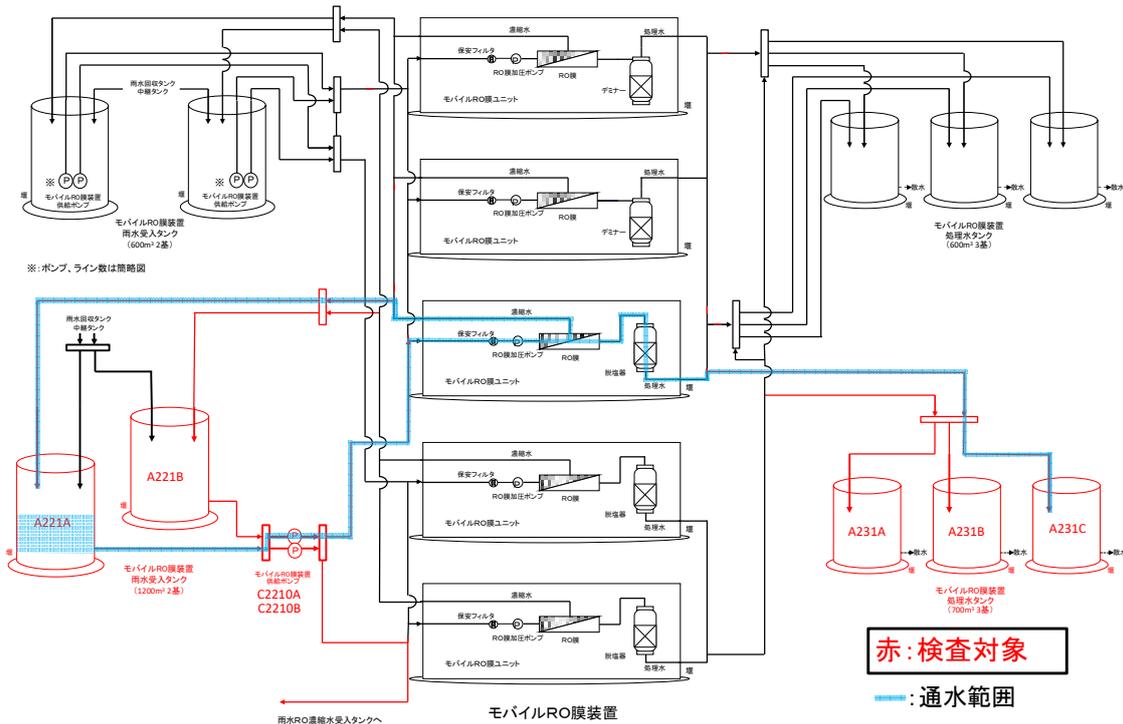
< 通水範囲 >



- (1) モバイルRO膜装置雨水受入タンク B (1200m³) からモバイルRO膜装置処理水タンク B (700m³) までの系統構成を実施する。
- (2) モバイルRO膜装置供給ポンプ B (C2210B) を起動する。
- (3) モバイルRO膜装置 E を起動する。
- (4) モバイルRO膜装置処理水タンク B (700m³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (5) モバイルRO膜装置 E からの再循環により、モバイルRO膜装置雨水受入タンク B (1200m³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (6) モバイルRO膜装置 E を停止する。
- (7) モバイルRO膜装置供給ポンプ B (C2210B) を停止する。

9 モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m³) →
モバイルRO膜装置処理水タンク C (700m³)

< 通水範囲 >



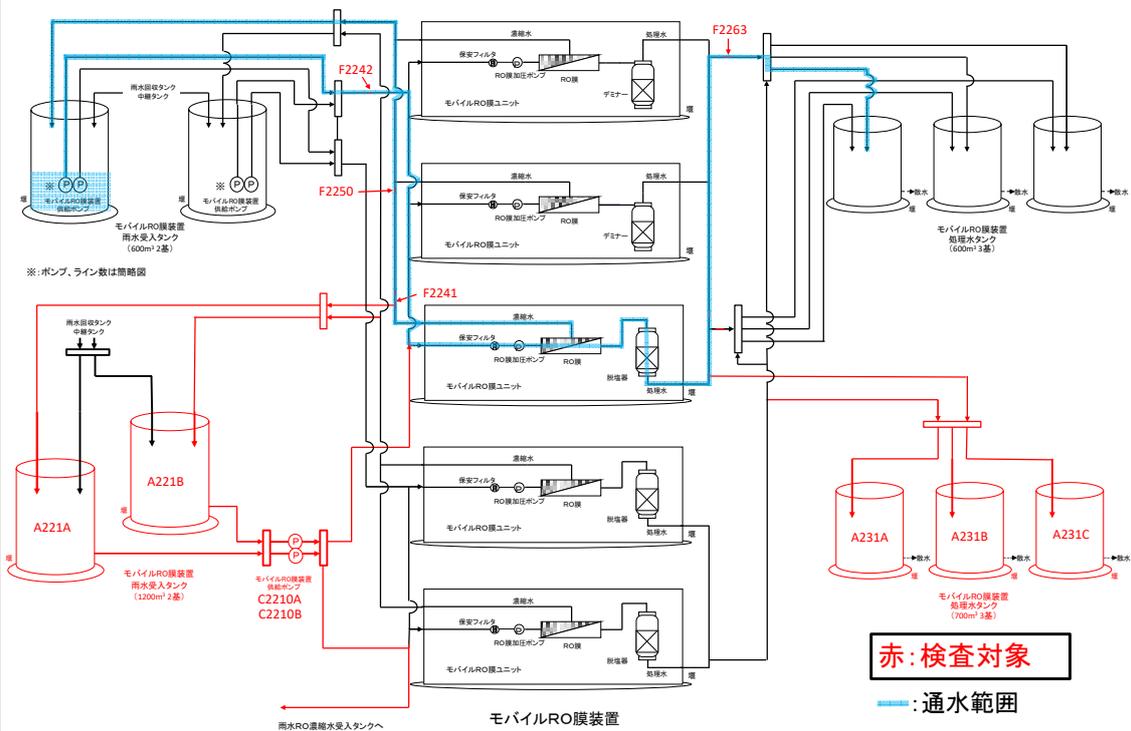
- | | |
|-----|---|
| (1) | モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m ³) からモバイルRO膜装置処理水タンク C (700m ³) までの系統構成を実施する。 |
| (2) | モバイルRO膜装置供給ポンプ A (C2210A) を起動する。 |
| (3) | モバイルRO膜装置 C を起動する。 |
| (4) | モバイルRO膜装置処理水タンク C (700m ³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (5) | モバイルRO膜装置 C からの再循環により、モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m ³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (6) | モバイルRO膜装置 C を停止する。 |
| (7) | モバイルRO膜装置供給ポンプ A (C2210A) を停止する。 |

10 追加弁 F2241, F2242, F2250, F2263 の通水確認

(モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (600m³) →

モバイルRO膜装置処理水タンク A (600m³))

<通水範囲>



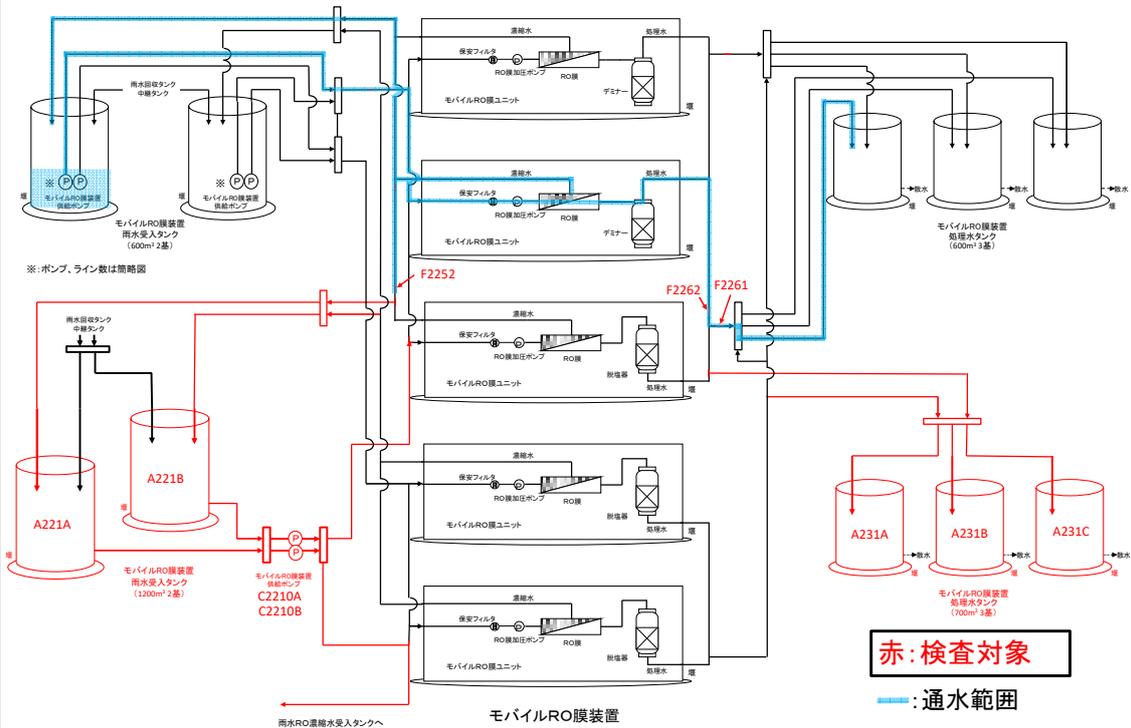
- | | |
|-----|--|
| (1) | モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (600m ³) から追加弁 F2242, F2263 を通り、モバイルRO膜装置処理水タンク A (600m ³) まで通水する系統構成を実施する。 |
| (2) | モバイルRO膜装置 C から追加弁 F2241, F2250 を通り、モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (600m ³) まで再循環する系統構成を実施する。 |
| (3) | モバイルRO膜装置供給ポンプ (C201A1) を起動する。 |
| (4) | モバイルRO膜装置 C を起動する。 |
| (5) | モバイルRO膜装置処理水タンク A (600m ³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (6) | モバイルRO膜装置 C からの再循環により、モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (600m ³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (7) | モバイルRO膜装置 C を停止する。 |
| (8) | モバイルRO膜装置供給ポンプ (C201A1) を停止する。 |

1 1 追加弁 F2252, F2261, F2262 の通水確認

(モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (600m³) →

モバイルRO膜装置処理水タンク A (600m³))

<通水範囲>



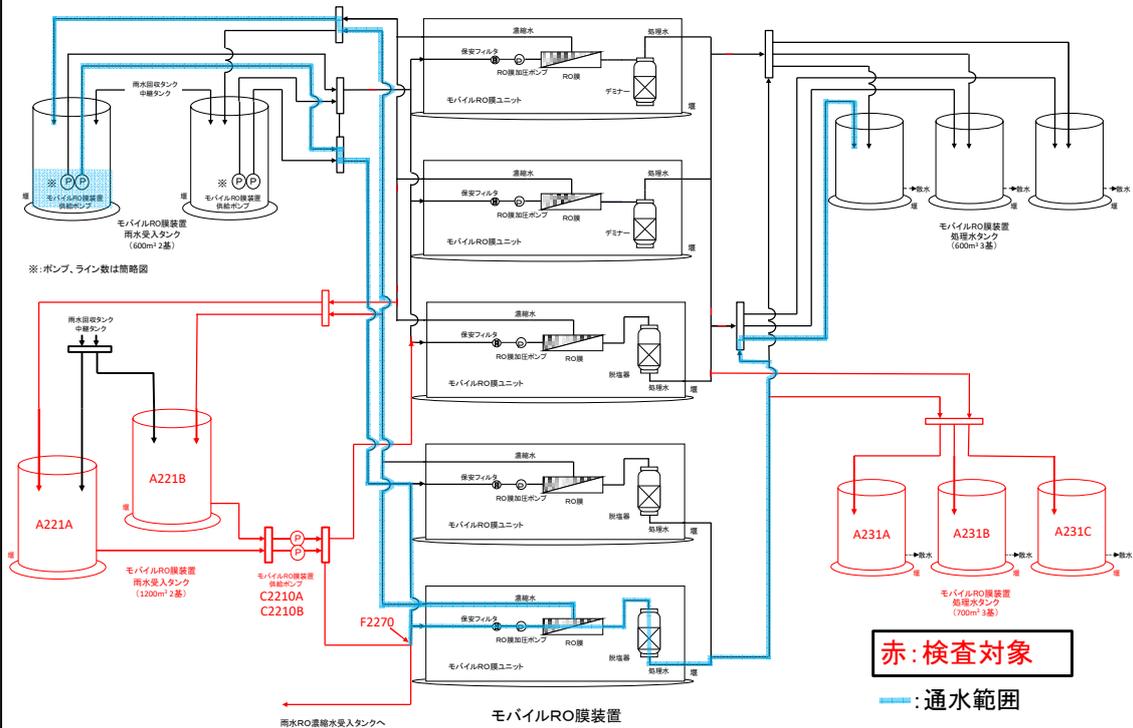
- | | |
|-----|--|
| (1) | モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (600m ³) から追加弁 F2262, F2261 を通り、モバイルRO膜装置処理水タンク A (600m ³) まで通水する系統構成を実施する。 |
| (2) | モバイルRO膜装置 B から追加弁 F2252 を通り、モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (600m ³) まで再循環する系統構成を実施する。 |
| (3) | モバイルRO膜装置供給ポンプ (C201A1) を起動する。 |
| (4) | モバイルRO膜装置 B を起動する。 |
| (5) | モバイルRO膜装置処理水タンク A (600m ³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (6) | モバイルRO膜装置 B からの再循環により、モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (600m ³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (7) | モバイルRO膜装置 B を停止する。 |
| (8) | モバイルRO膜装置供給ポンプ (C201A1) を停止する。 |

1 2 追加弁 F2270 の通水確認

(モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (600m³) →

モバイルRO膜装置処理水タンク A (600m³)

<通水範囲>



- | | |
|-----|---|
| (1) | モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (600m ³) から追加弁 F2270 を通り、モバイルRO膜装置処理水タンク A (600m ³) まで通水する系統構成を実施する。 |
| (2) | モバイルRO膜装置供給ポンプ (C201A3) を起動する。 |
| (3) | モバイルRO膜装置 E を起動する。 |
| (4) | モバイルRO膜装置処理水タンク A (600m ³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (5) | モバイルRO膜装置 E を停止する。 |
| (6) | モバイルRO膜装置供給ポンプ (C201A3) を停止する。 |